

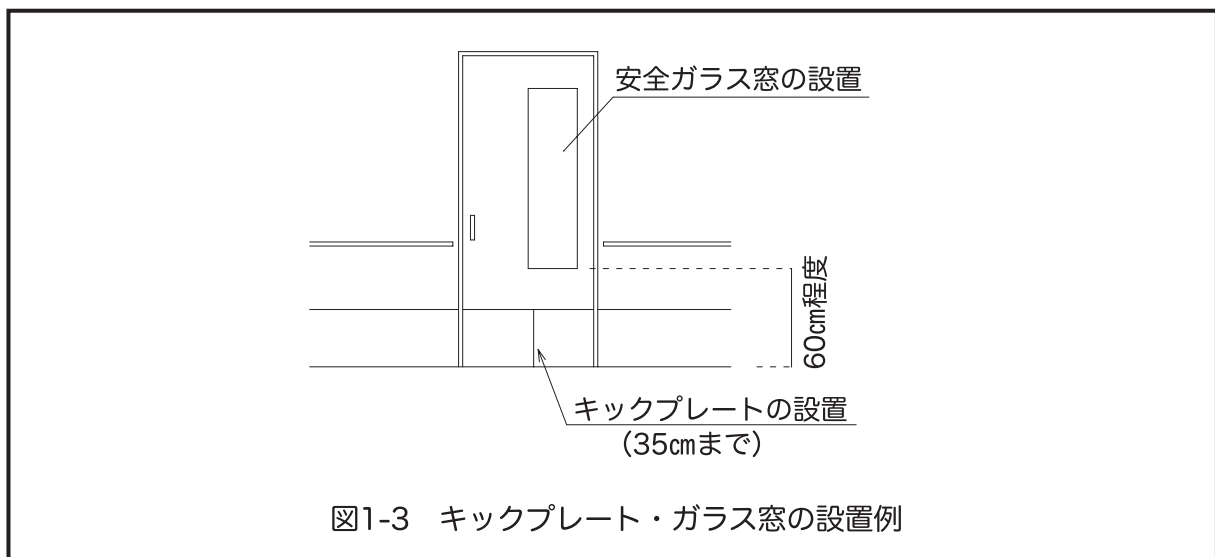
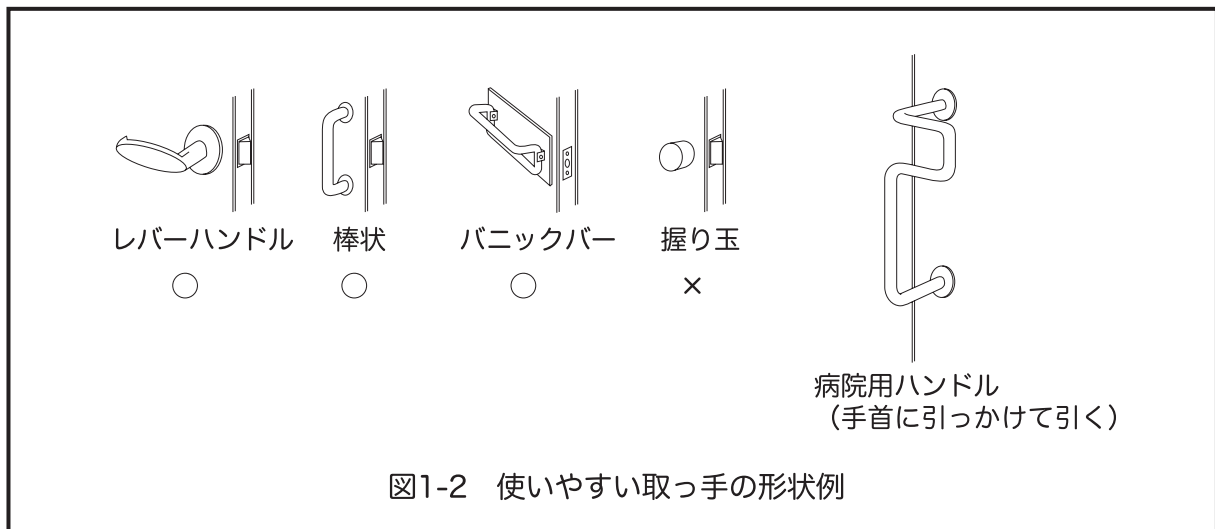
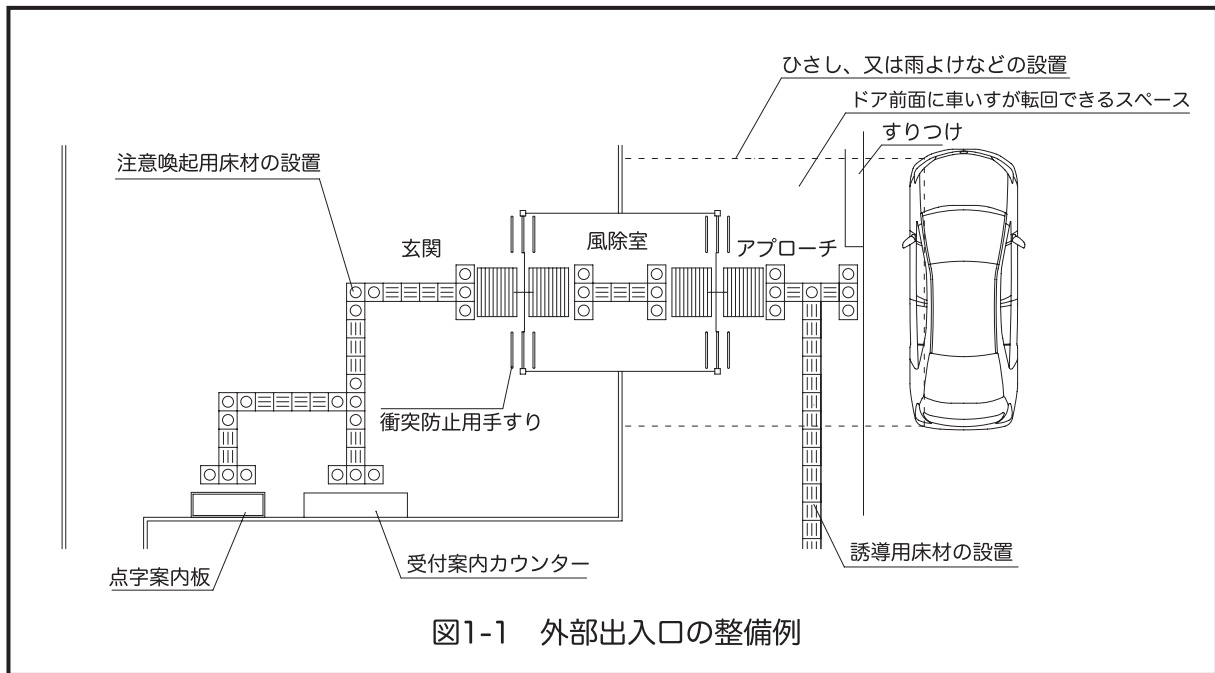
第3章

.....
より望ましい施設整備に向けて

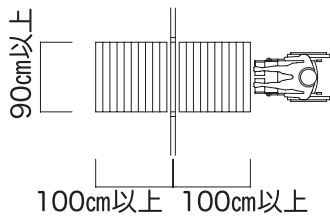
3-1 施設整備例

.....

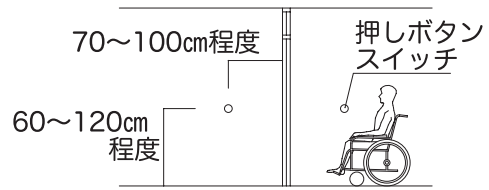
1. 建築物



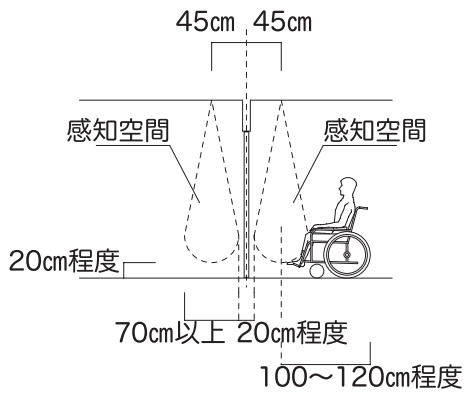
a. マットスイッチ (床面感知)



b. 押しボタンスイッチ (点感知)



c. 超音波スイッチ (空間感知)



d. 光線スイッチ (線感知)

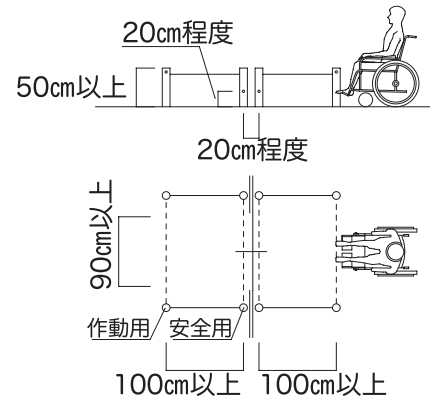


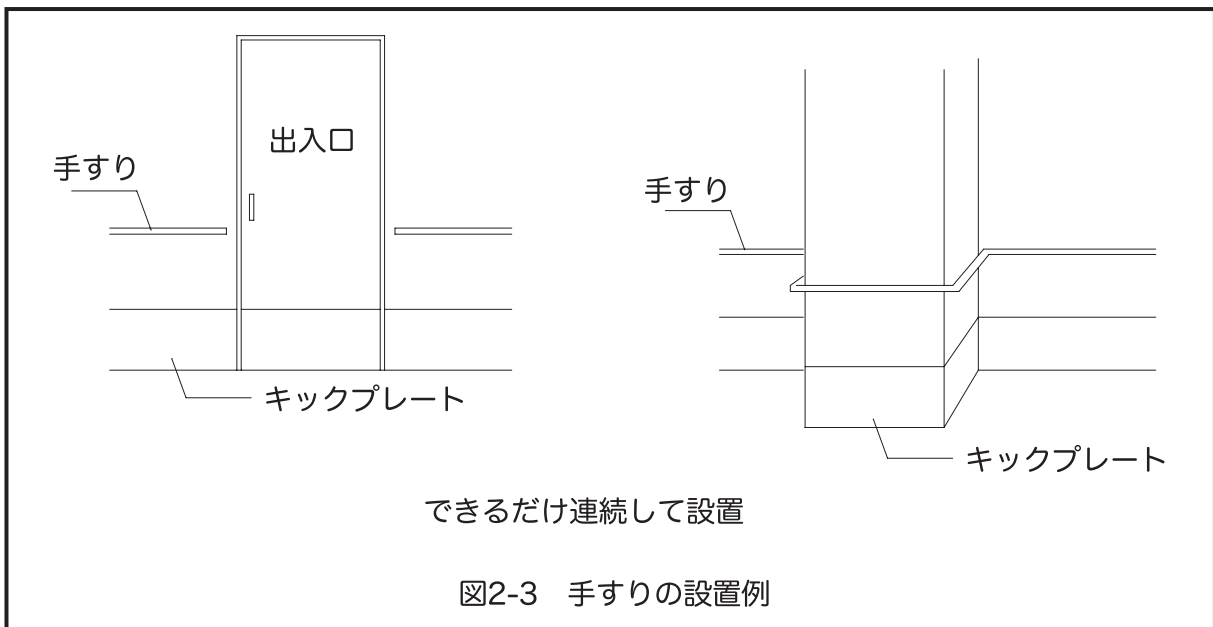
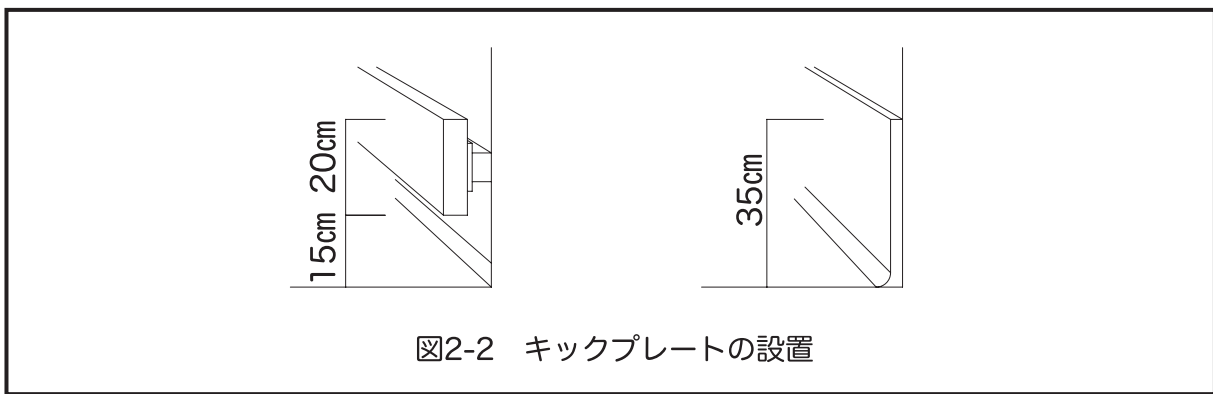
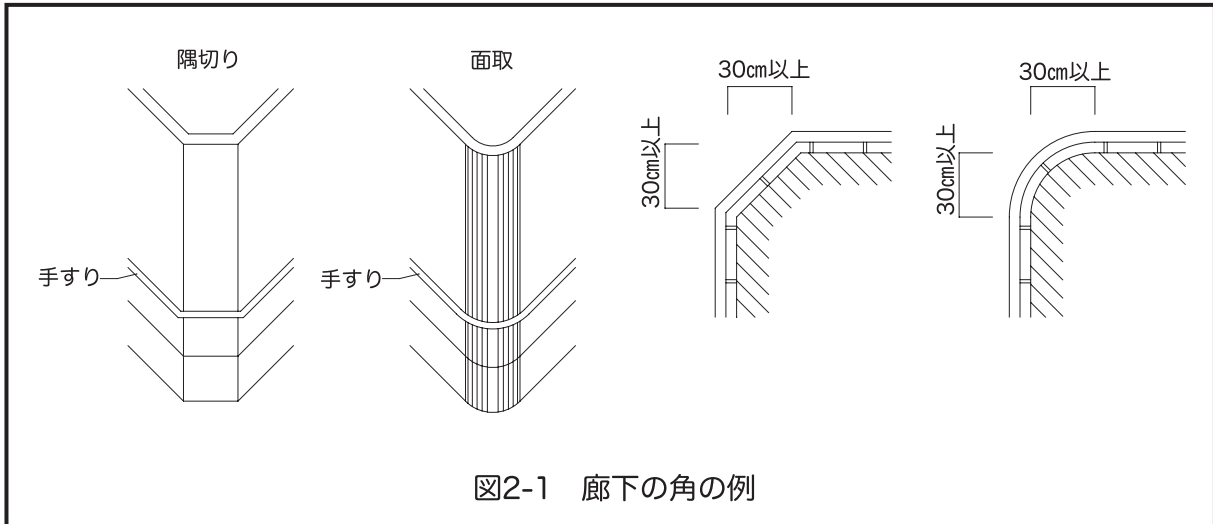
図1-4 自動ドアの感知方式(参考)

2. 廊下等

施行規則

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (2項 廊下等)

建築物



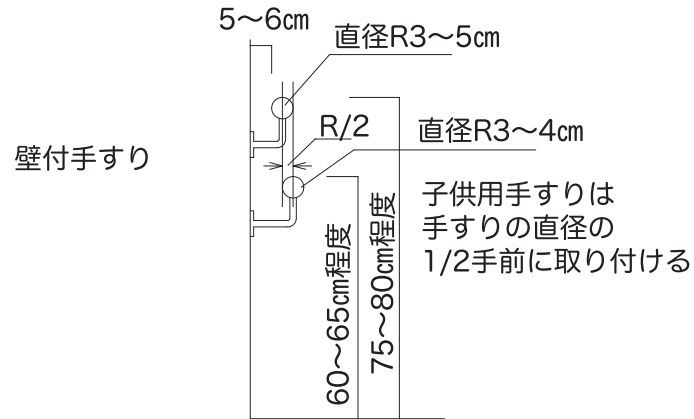


図2-4 手すりの設置寸法例

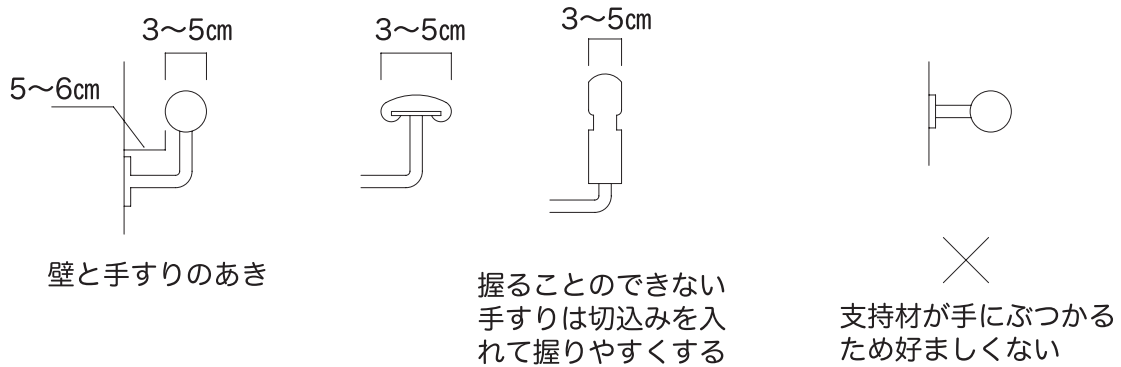


図2-5 手すりの形状例

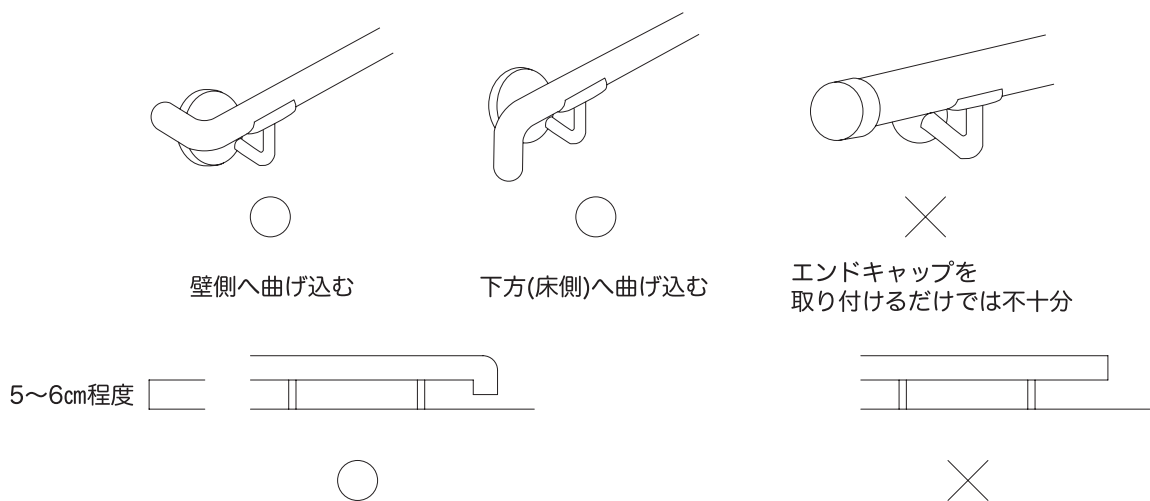


図2-6 手すりの端部の形状例

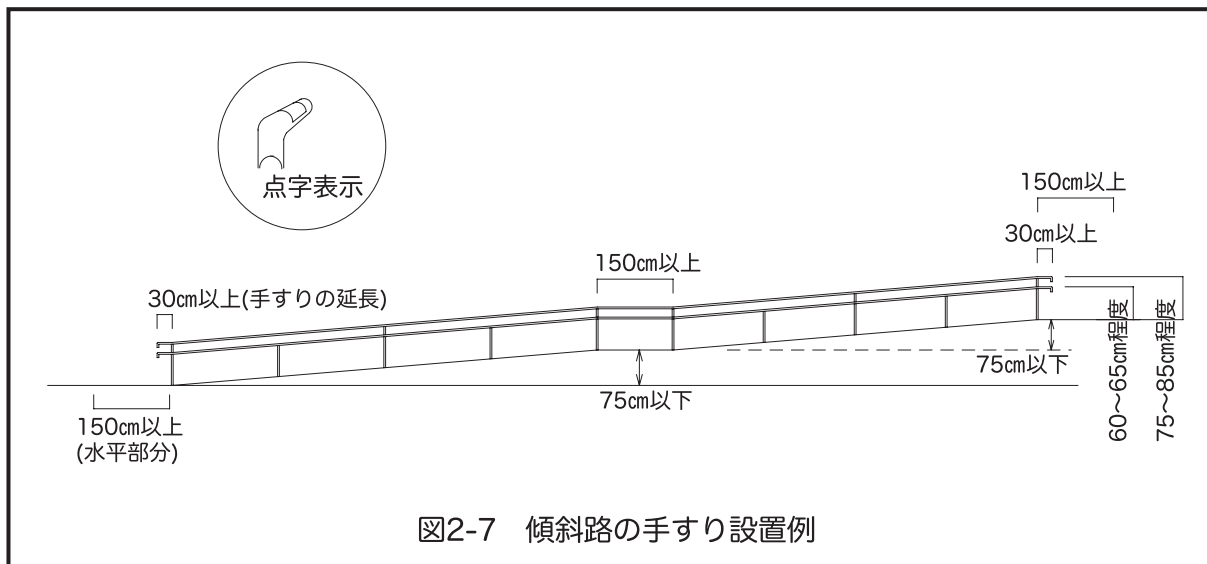
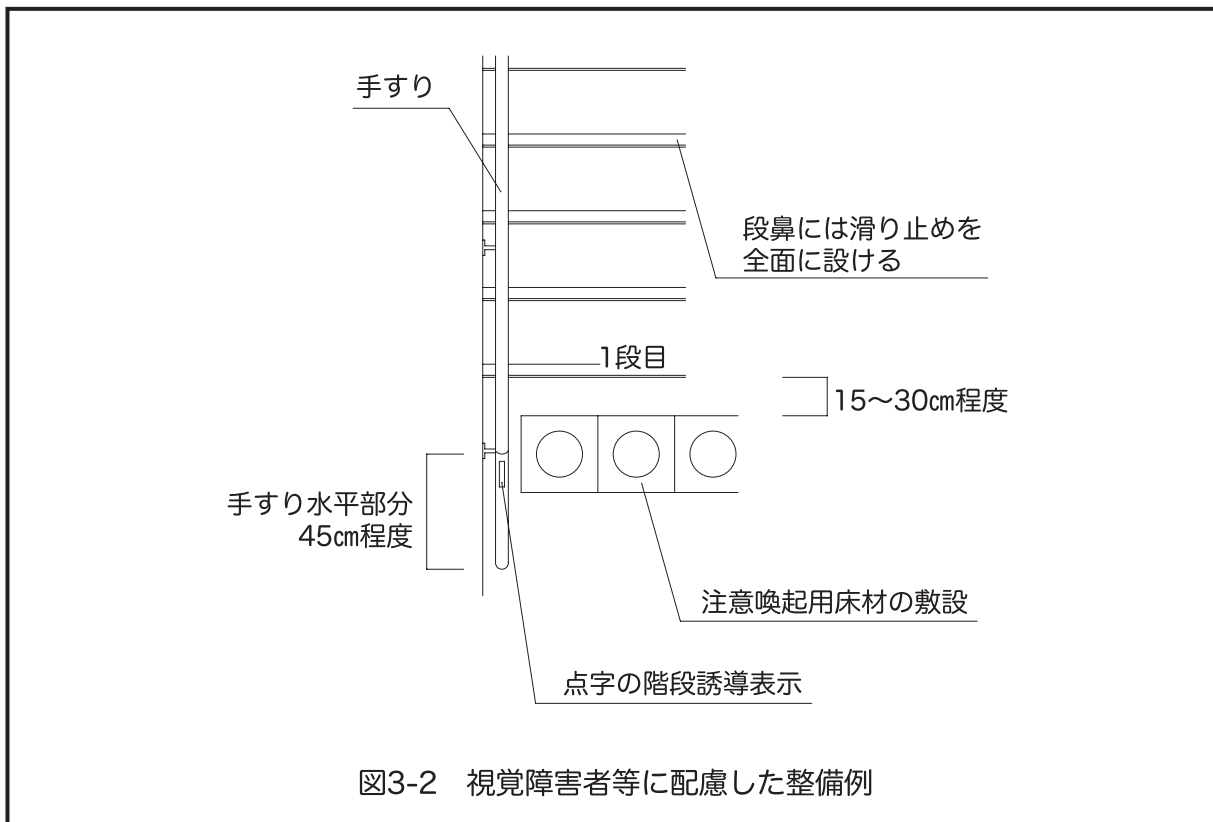
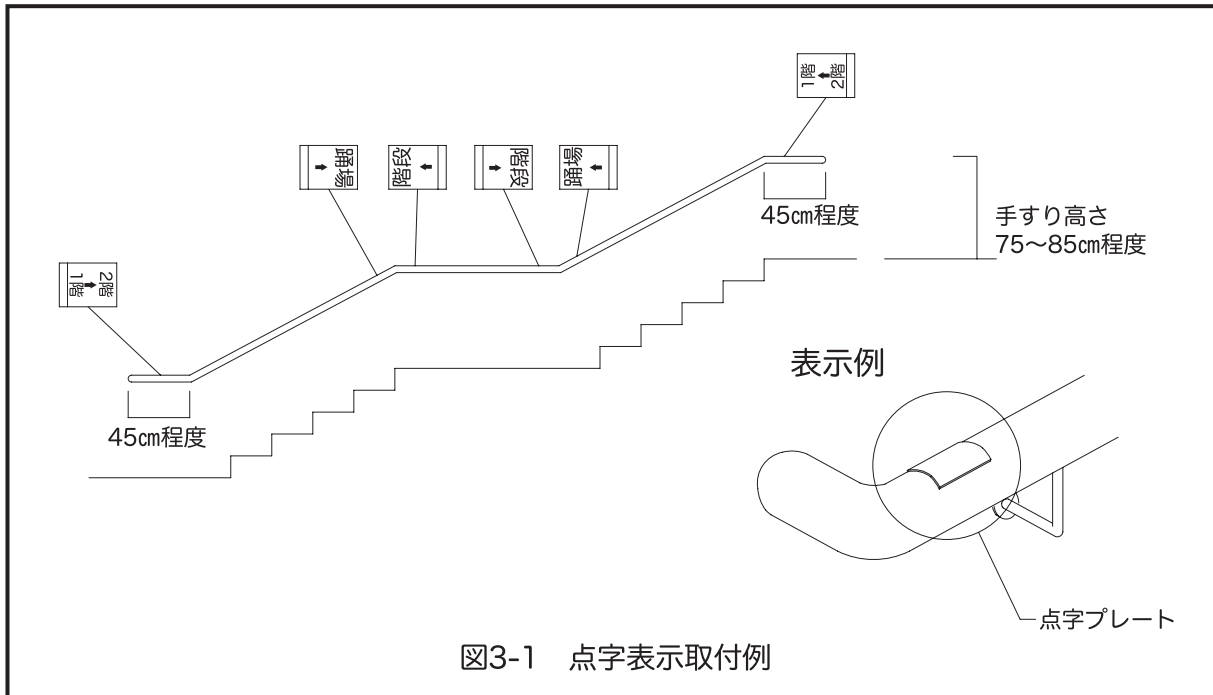
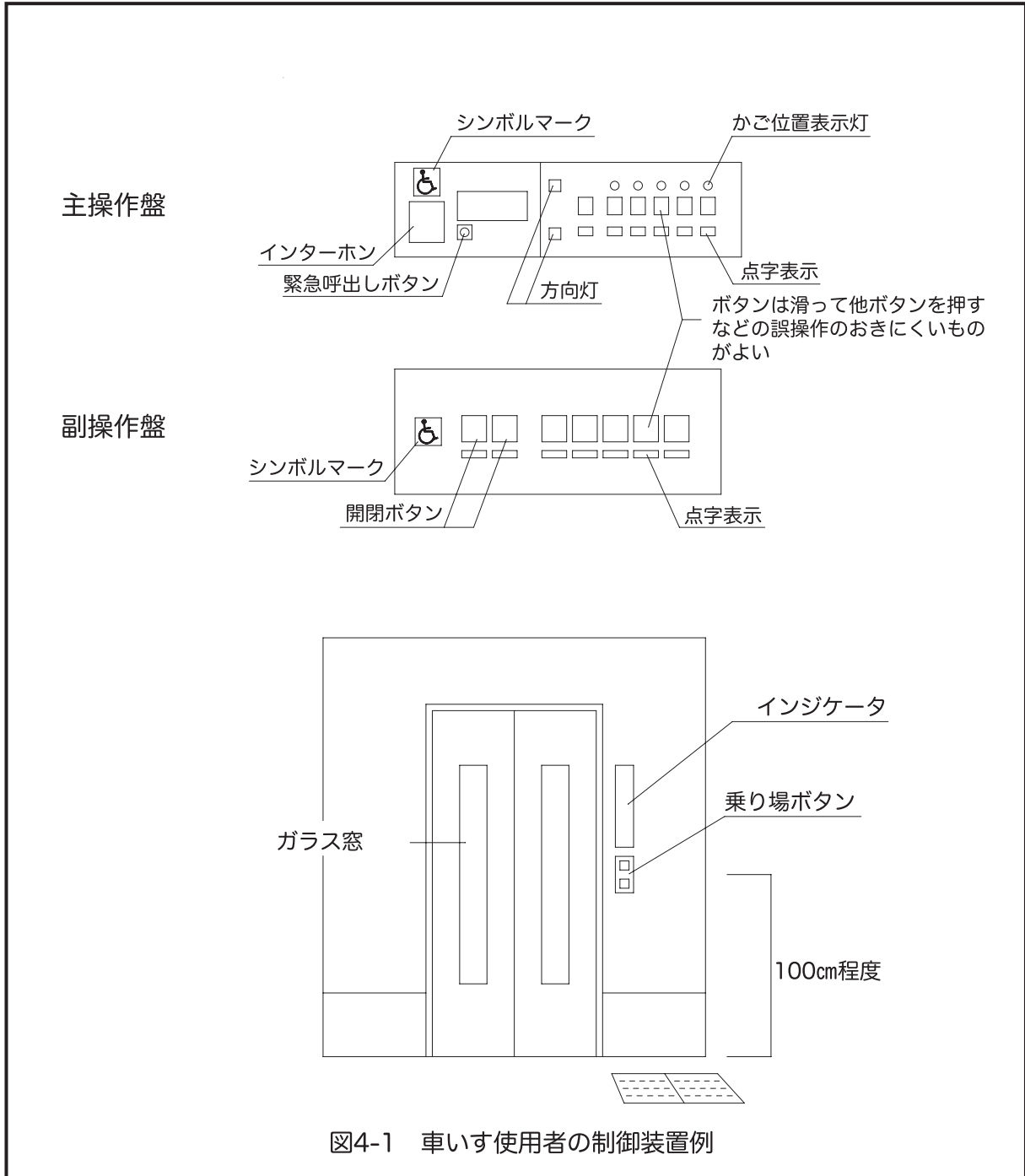


図2-7 傾斜路の手すり設置例










4. エレベーター

施行規則

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (4項 エレベーター)

建築物

表4-1 エレベーターの参考事例

エレベーターの仕様		
大形インジケータ	文字の大きさ55mmの大型インジケータ。斜め下向きに設置されているので、小さな子どもでもしっかり確認できる。	
大形窓	合わせガラスの大形化で、乗場からもかご内がより見やすい。	
ステンレス丸形ボタン (凸文字仕様)	無理な力を加えても壊れにくいステンレス製の凸文字ボタン。	
60mm大形ボタン	大きくすることで、見やすく、荷物を持っていても、押しやすい。	
60mm大形ボタン (凸文字仕様)	凸文字仕様。浮き彫りをさわると階数がわかる。	

4. エレベーター

施行規則

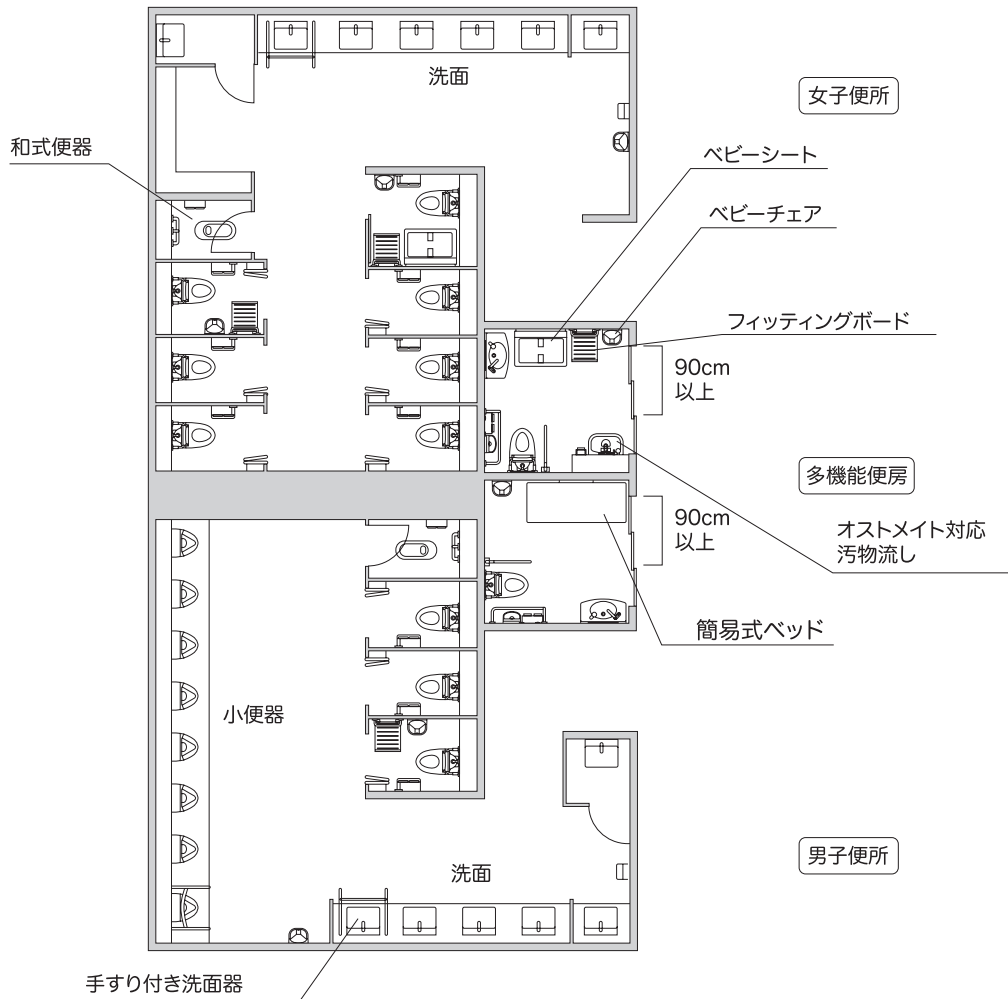
別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (4項 エレベーター)

建築物

表4-2 福祉対応エレベーター

福祉仕様	
視覚障害者対応仕様	<p>乗場や、かごの操作ボタンへの点字表示。点字は一般に左から読まれるため、点字表示の位置をボタンの左側に統一(車いす専用操作盤は上側)。また、光電装置で乗客の乗り降りを確認してからドアの開閉を制御する「光電式ドアセンサ」、エレベーターの運行状況を音声で知らせる「音声合成アナウンス」、ドアの開いている時間にゆとりを持たせる「戸開放時間延長」などを装備することで、いっそうの利便性を図ることができる。</p> 
発音式かごボタン	<p>行先ボタンを押したとき、電子音でボタンが操作されたことを伝える</p> 
誘導音	<p>操作盤から流れる電子音により、視覚障害者が操作盤の位置を探すサポートをする。</p>
インターホン呼び出しボタン応答灯 (聴覚障害者対応仕様)	<p>かご操作盤のインターホン呼び出しボタンを押したとき、呼出中はランプが点灯し、外部からの応答があるとランプが点滅する。</p>  <p style="text-align: right; font-size: small;">応答ランプ点灯</p>
車いす用標準仕様	 <p>(注) かご操作盤は、袖壁操作盤と車いす専用操作盤が付く。</p>

大規模便所
(交通施設など不特定多数が使用)



小規模便所
(店舗や飲食店などの男女別)

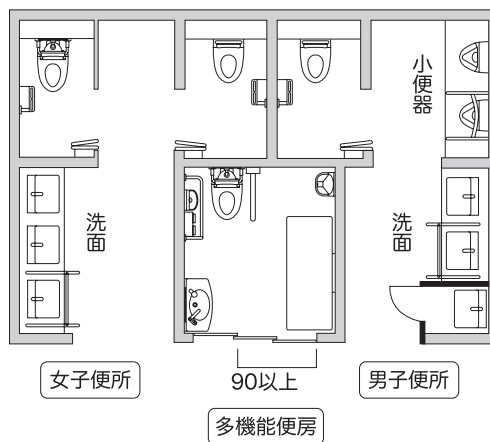
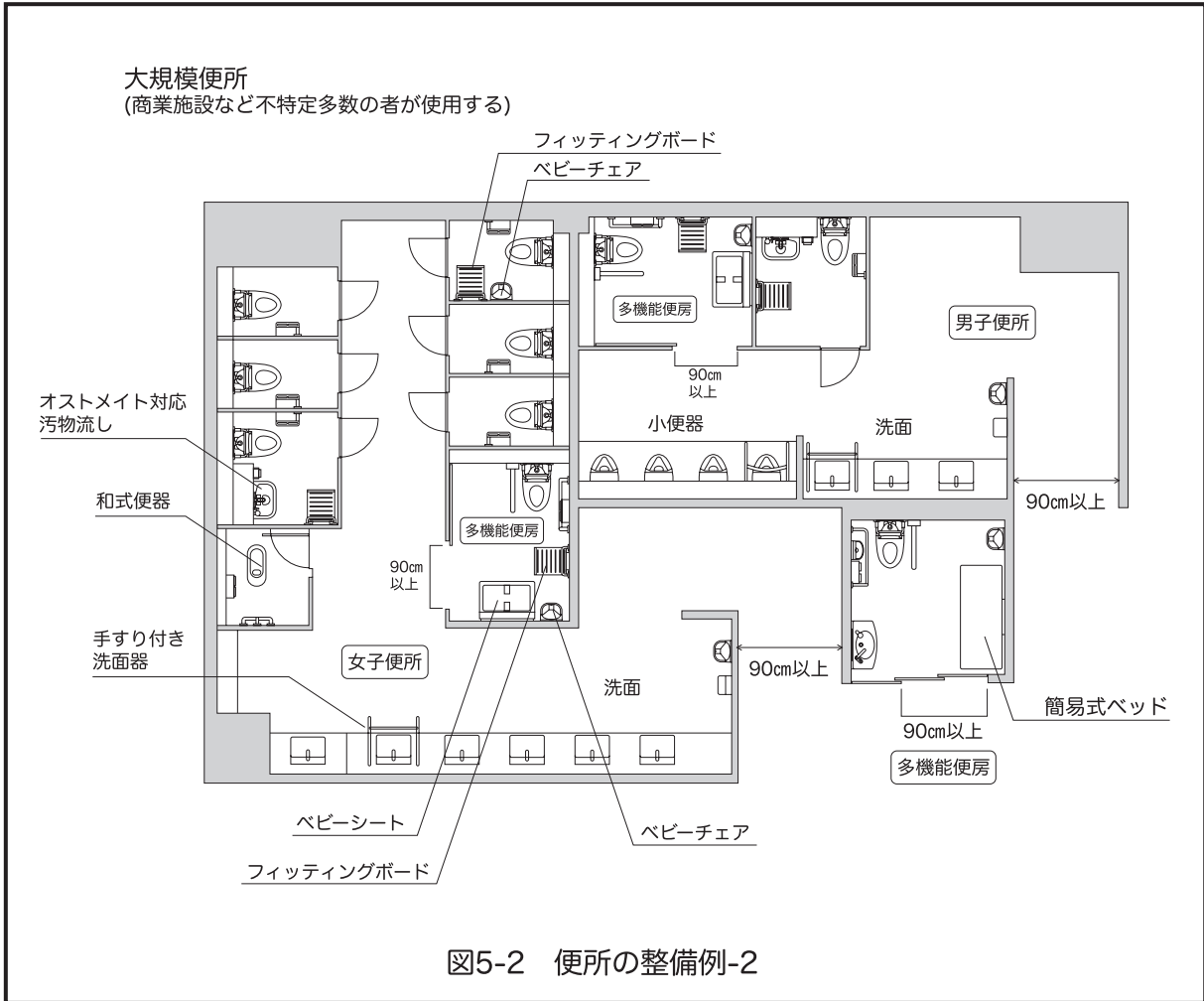


図5-1 便所の整備例-1



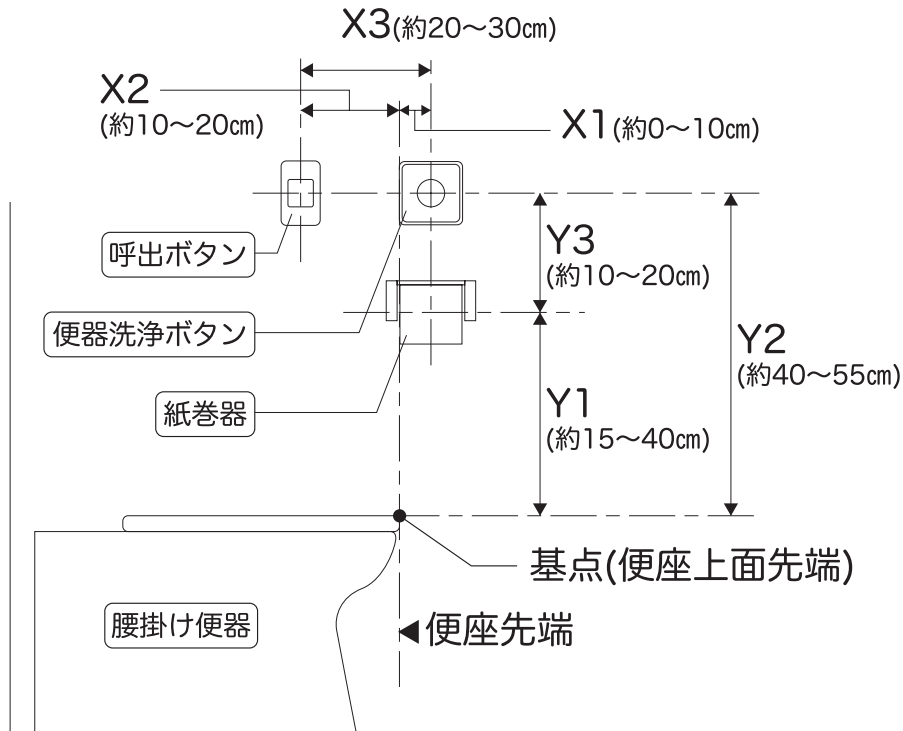
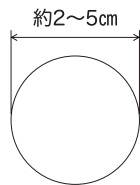


表 操作部及び紙巻器の配置及び設置寸法

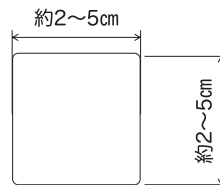
器具の種類	便座上面先端(基点)からの水平距離	便座上面先端(基点)からの垂直距離	二つの器具間距離
紙巻器	X1 : 便器前方へ 約0~10cm	Y1 : 便器上方へ 約15~40cm	—
便器洗浄ボタン		Y2 : 便器上方へ 約40~55cm	Y3 : 約10~20cm (紙巻器との垂直距離)
呼出ボタン	X2 : 便器後方へ 約10~20cm		X3 : 約20~30cm (便器洗浄ボタンとの水平距離)

便器洗浄ボタンの例

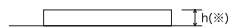


便器洗浄ボタンの形状は丸形
(手のひらや甲でも押しやすい大きさ)

呼出しボタンの例



呼出しボタンの形状は、
便器洗浄ボタンと区別しやすい形状
(例えば四角形、又は三角形)
(手のひらや甲でも押しやすい大きさ)



(※)ボタンの高さは、目の不自由な人が触覚で認知しやすいように、ボタン部を周辺面より突起させることが望ましい。

図5-3 紙巻き器・便器洗浄ボタン・呼出ボタンの配置及び形状(JIS T0026)

5. 便所

施行規則

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (5項 便所)

建築物

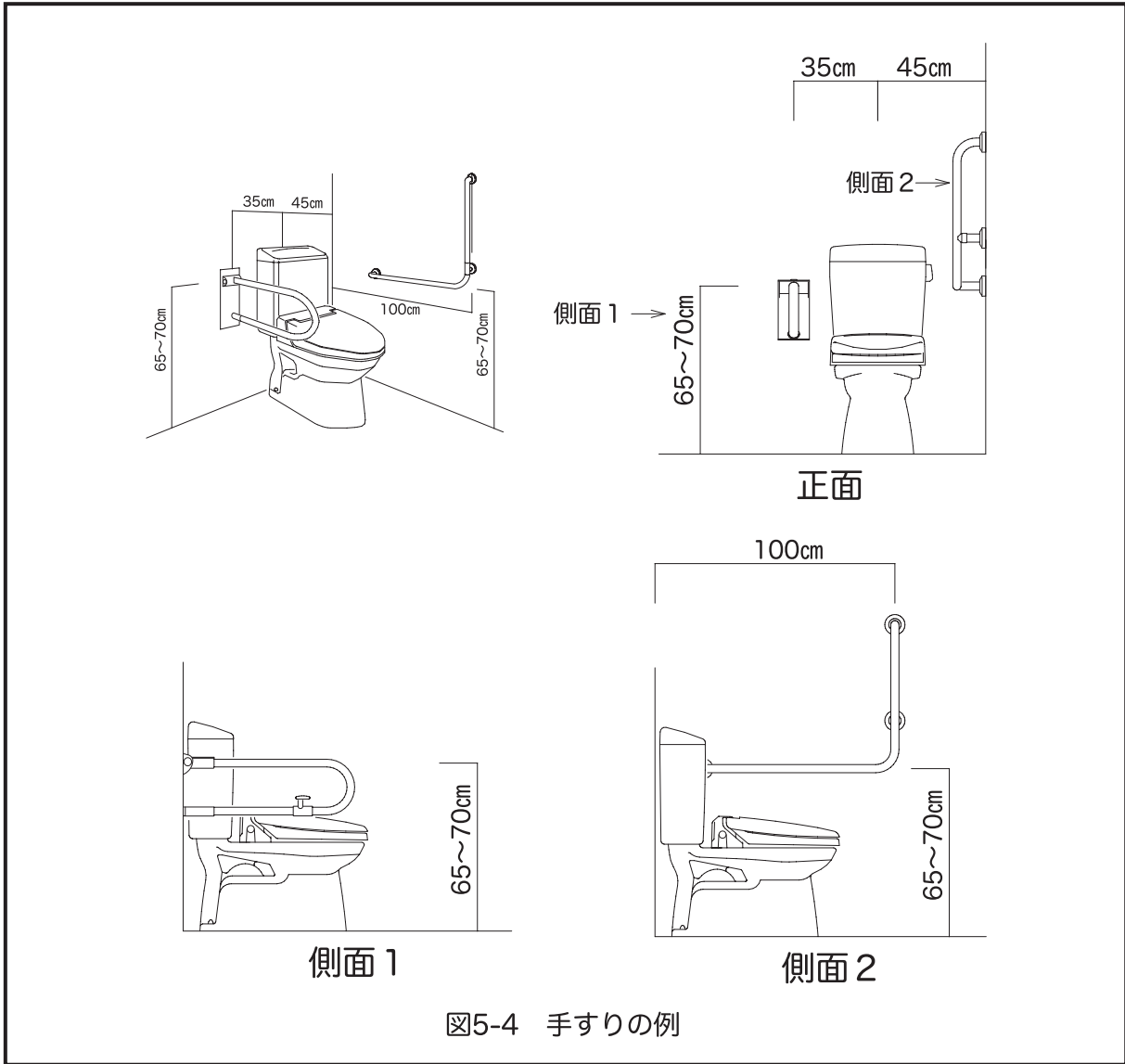


図5-4 手すりの例

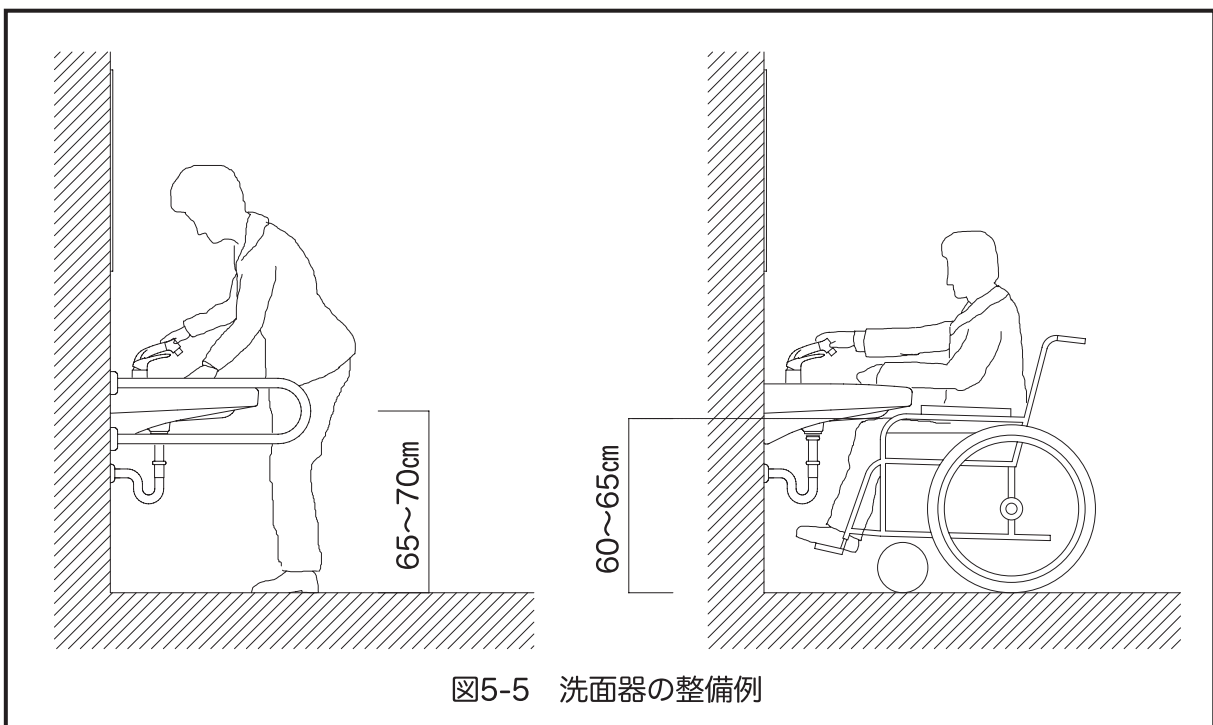
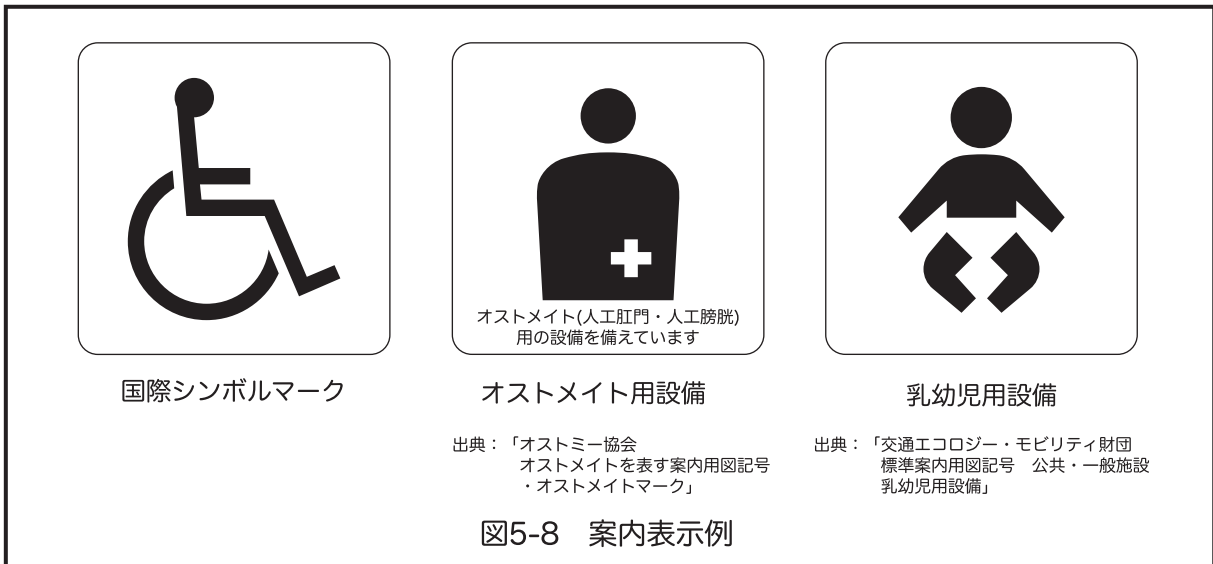
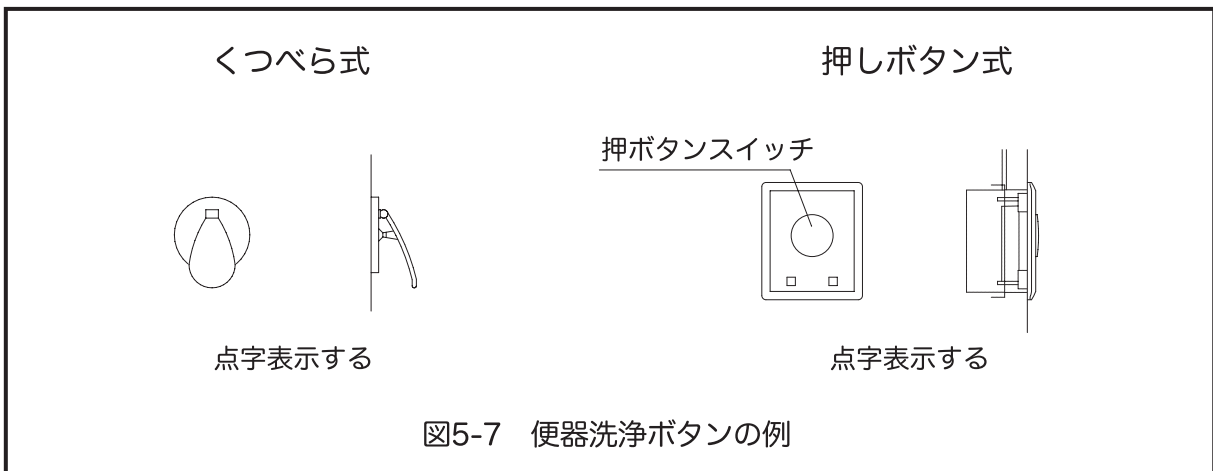
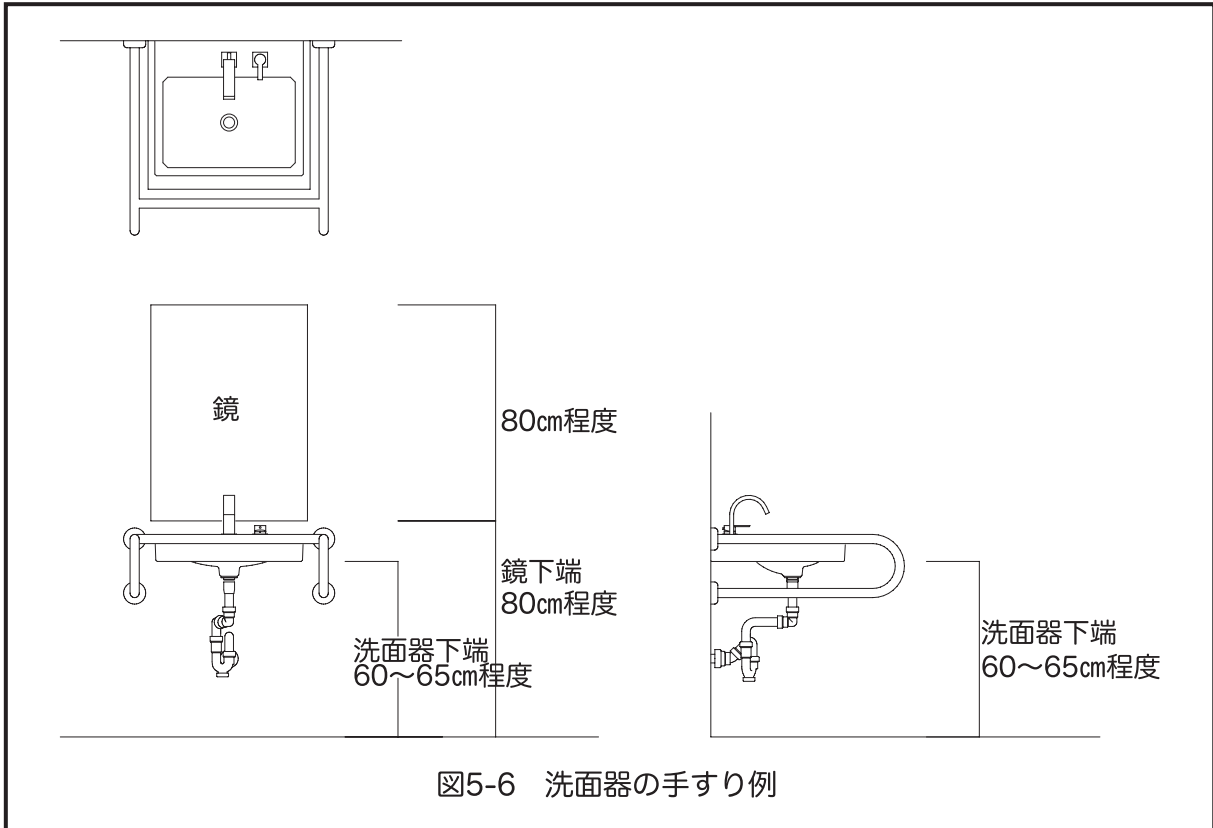
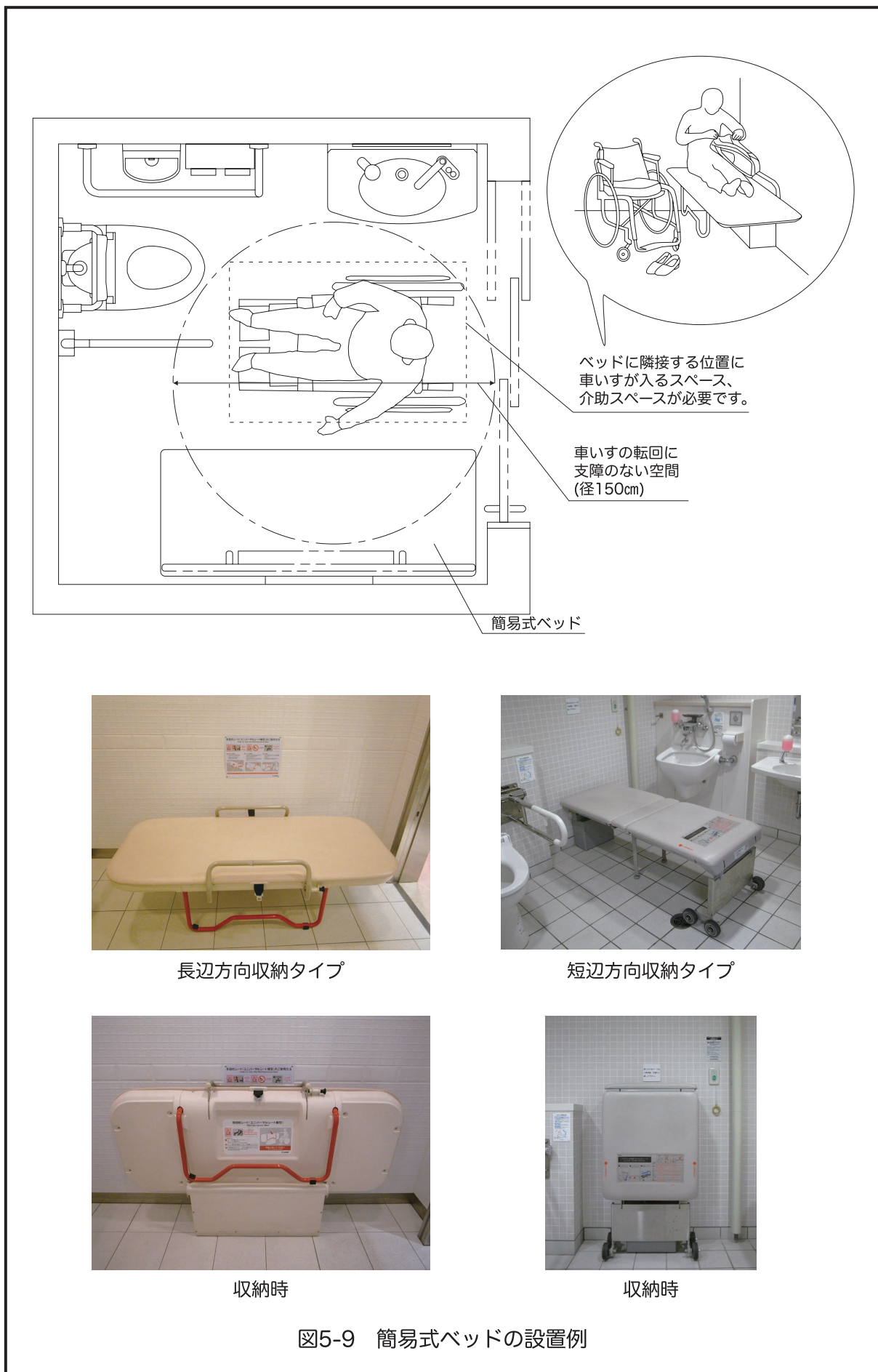


図5-5 洗面器の整備例





長辺方向収納タイプ



短辺方向収納タイプ



収納時



収納時

図5-9 簡易式ベッドの設置例

表5-1 オストメイト対応のポイント

オストメイトとは		
直腸や膀胱などの臓器に機能障害を負い、腹部に人工的に排泄のための孔(ストーマ)を造設した人のことをいう。日常の排泄行為には様々な苦勞がある。		
トイレ内での排泄処理 (一般的な例)		
通常時の行為	非常時の行為	
パウチを開口し、 汚物流しに排泄物をすてる	汚れた衣服を脱ぎ パウチを外す	
↓	↓	
パウチを簡単にすすいで捨て 腹部の汚れを拭き取る	腹部の汚れを洗い流す	
↓	↓	
新しいパウチを装着する	汚れた衣服をすすぐ	
↓	↓	
汚物流しの洗浄を行う	新しいパウチを装着する	
↓	↓	
汚物流しの洗浄を行う	汚物流しの洗浄を行う	
オストメイトが困っていること		
① ストーマ装具を交換するときに、作業スペースやストーマ装具などを手近に置く場所がない。また、手洗器、清拭に必要な温水設備がない。 ② トラブル発生時に、ストーマ周囲の皮膚や身体の汚れた部分の温水洗浄ができない。また、汚れたストーマ装具や下着を洗う設備がない。衣服や手荷物を置く場所もほしい。 ③ ストーマ装具を適切な位置に貼り付けるために、下腹部を映す鏡がほしい。 ④ 排せつ物を立ったままで、ストーマ装具から排出する場合には、通常の便器の高さでは低すぎる。 ⑤ オストメイト対応トイレの入口に、オストメイトマークなどを表示する。		
多機能便房への設置が望ましい設備		
設 備	説 明	用 途
汚物流し台	サーモスタット付きハンドシャワー混合栓／水石けん容器・ペーパーホルダー	腹部の清拭・洗浄／ストーマ装具の交換・装着／衣服・使用済みストーマ装具の洗濯
カウンター	汚物流し台の上部奥側	ストーマ装具・用品などを置くスペースと装着・交換のための作業用
ダブルフック	汚物流し台の脇	小物入れ用
汚物入れBOX	足踏み開閉	使用済みストーマ装具の廃棄など
衣服・手荷物用フック	複数のフックを設置	衣服や手荷物をかける
収納式着替え台	汚物流しの付近にセット	服の着替え用
鏡	汚物流し台の上部	下腹部を映し、装具を適切に貼り付ける
オストメイトマーク	入口にマークを表示	オストメイトが利用しやすい

汚物流し

オストメイトの汚物処理、
便漏れなどに幅広く対応。
便器よりも高い位置に設置
することで、しゃがむ必要
がない。

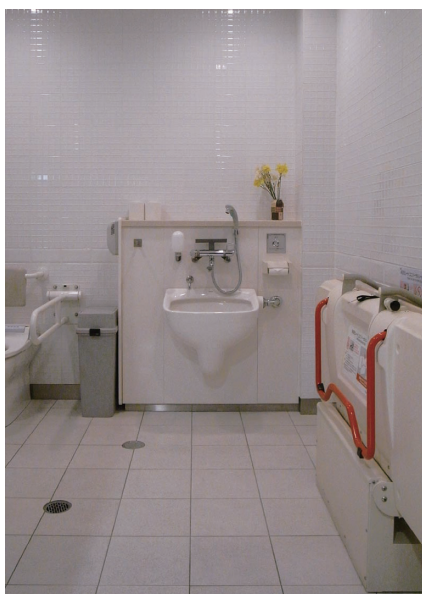
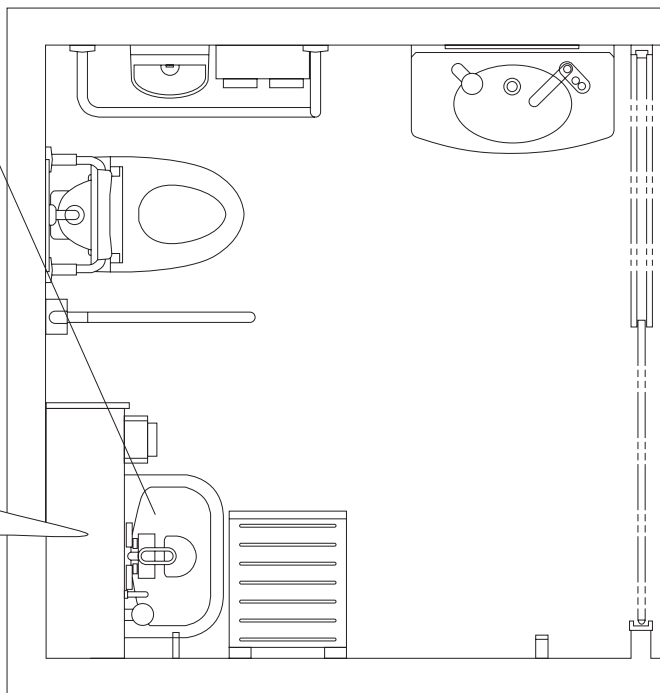
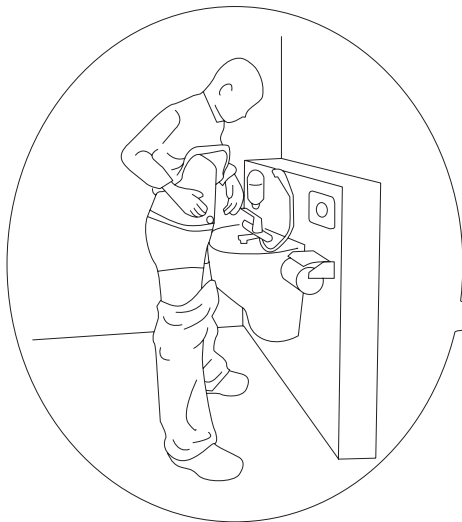
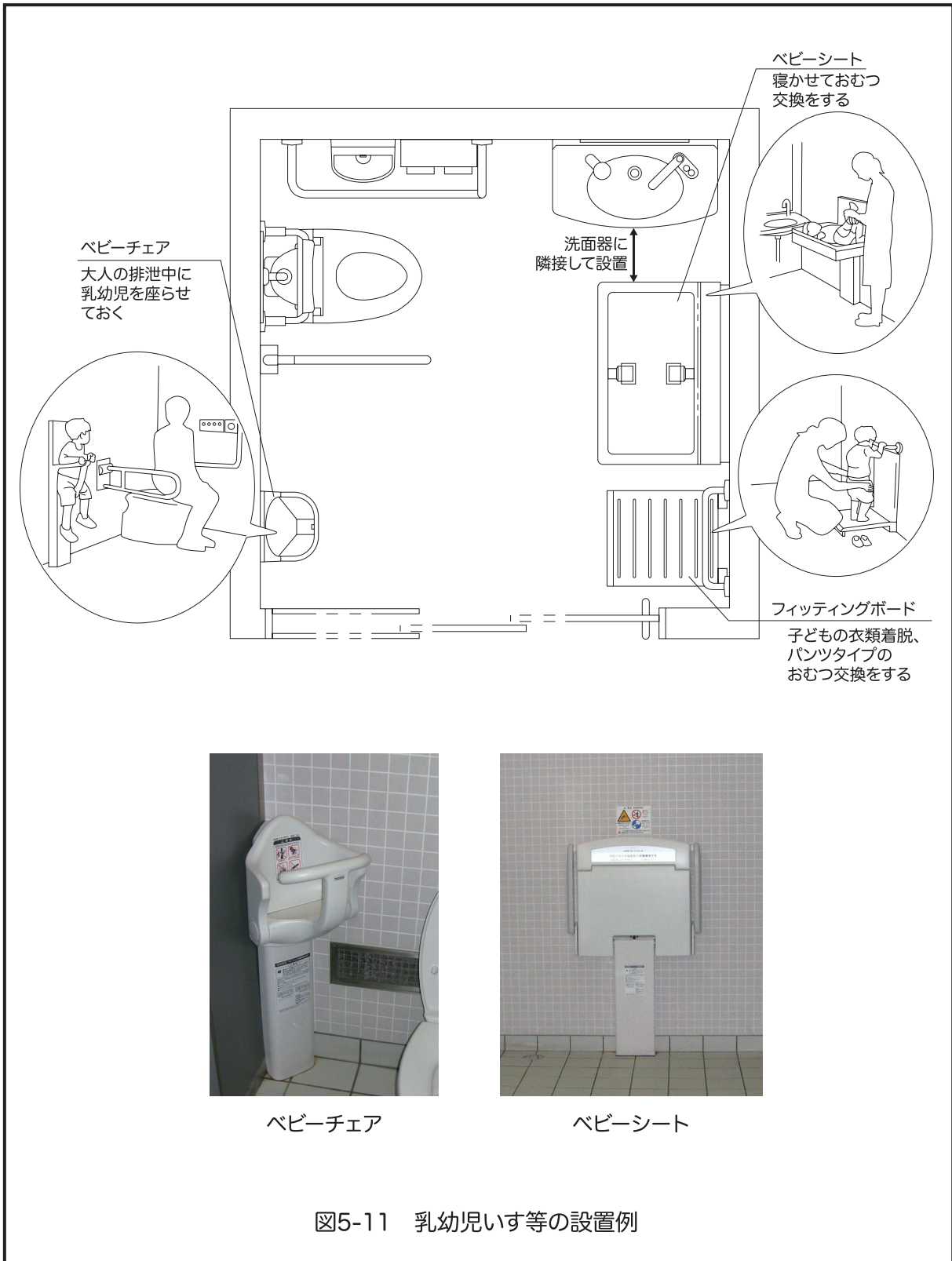


図5-10 オストメイト対応便所の整備例



ベビーチェア



ベビーシート

図5-11 乳幼児いす等の設置例

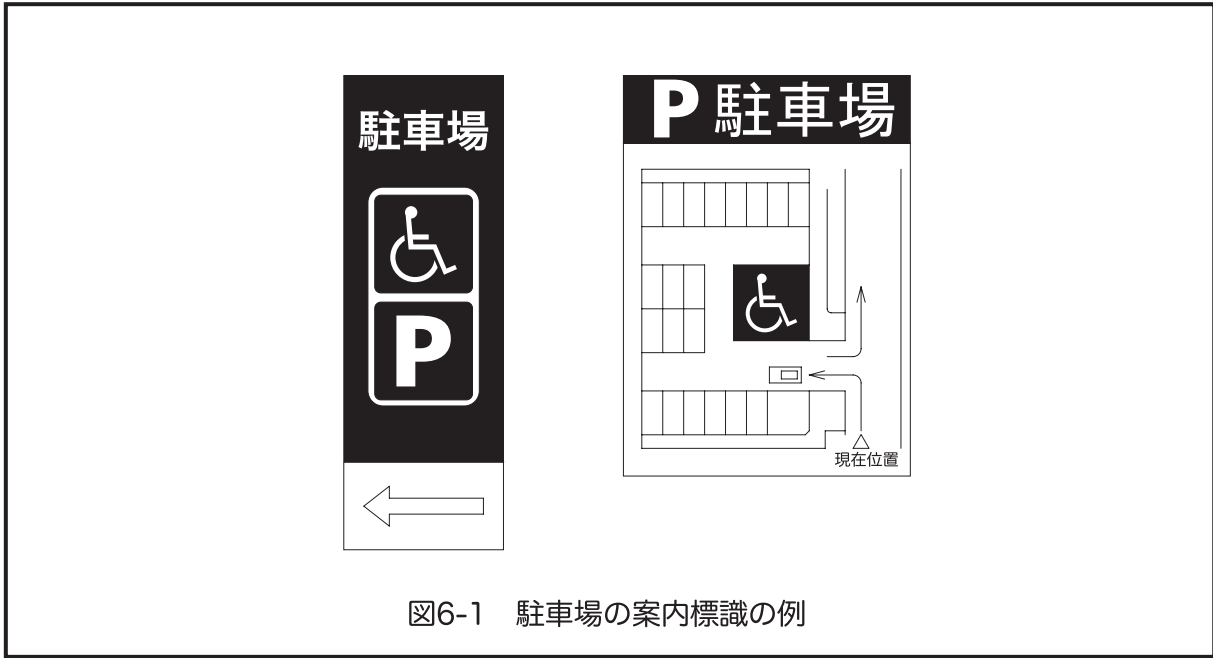


図6-1 駐車場の案内標識の例



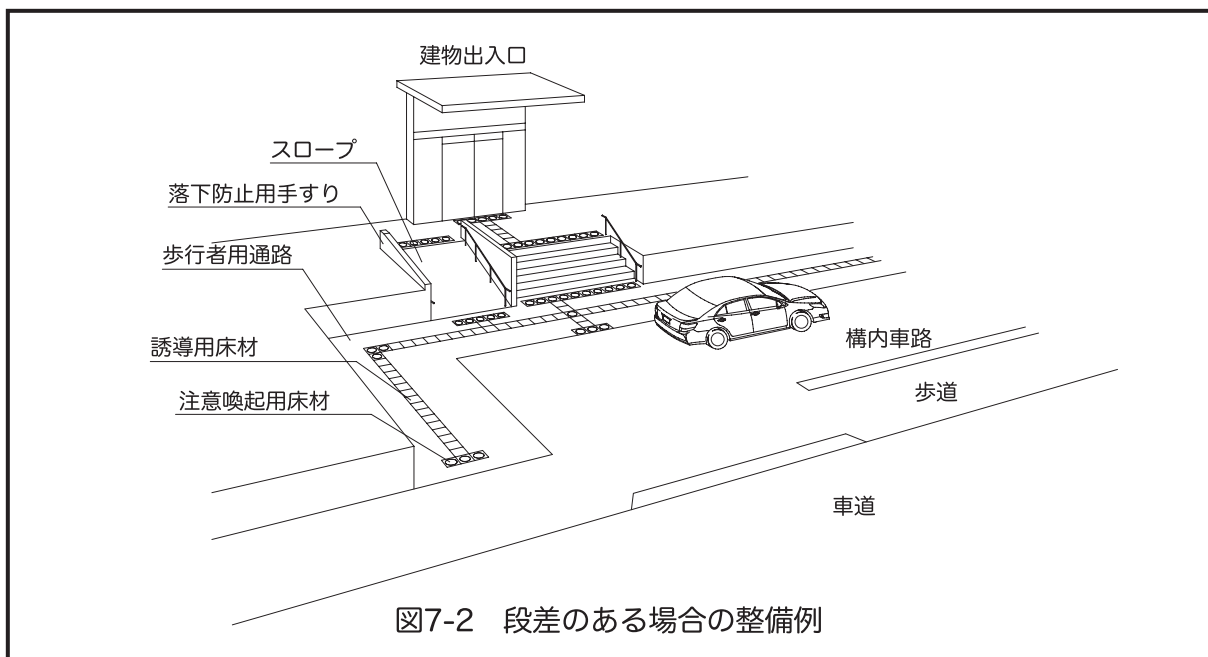
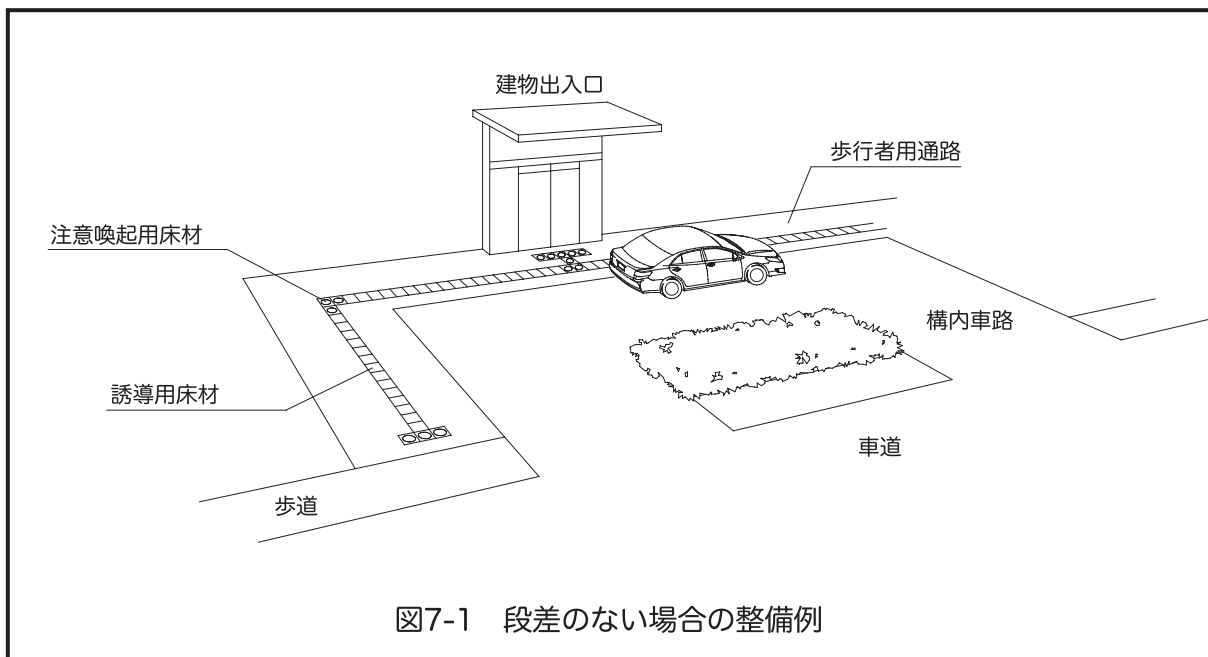
図6-2 優先駐車施設の標識の例

7. 敷地内の通路

施行規則

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (7項 敷地内の通路)

建築物



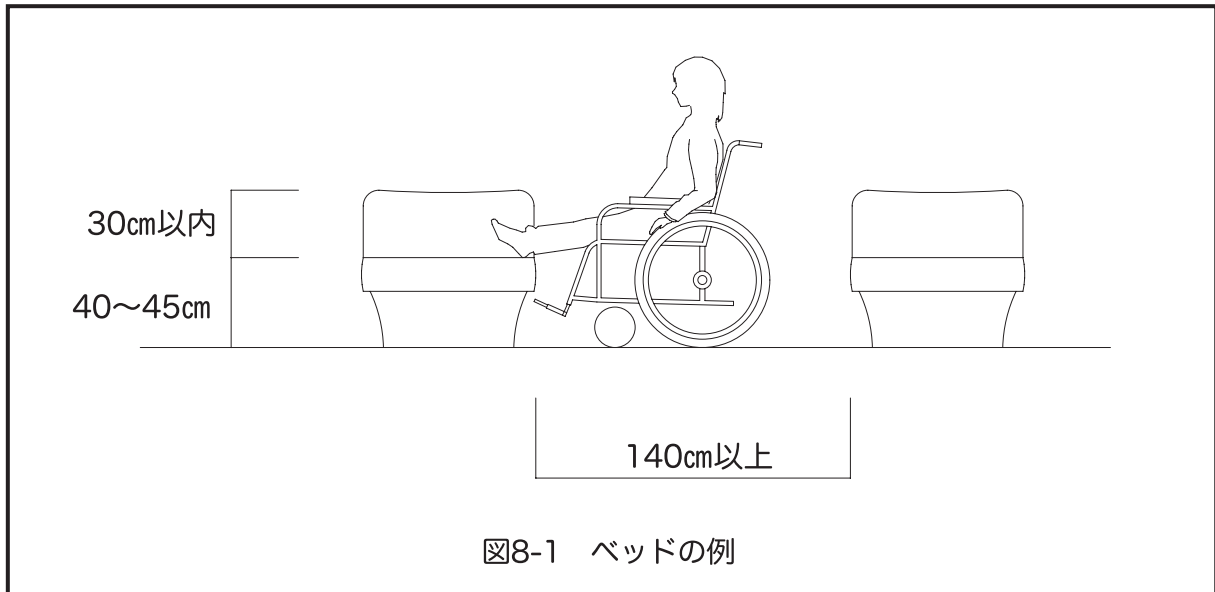


図8-1 ベッドの例

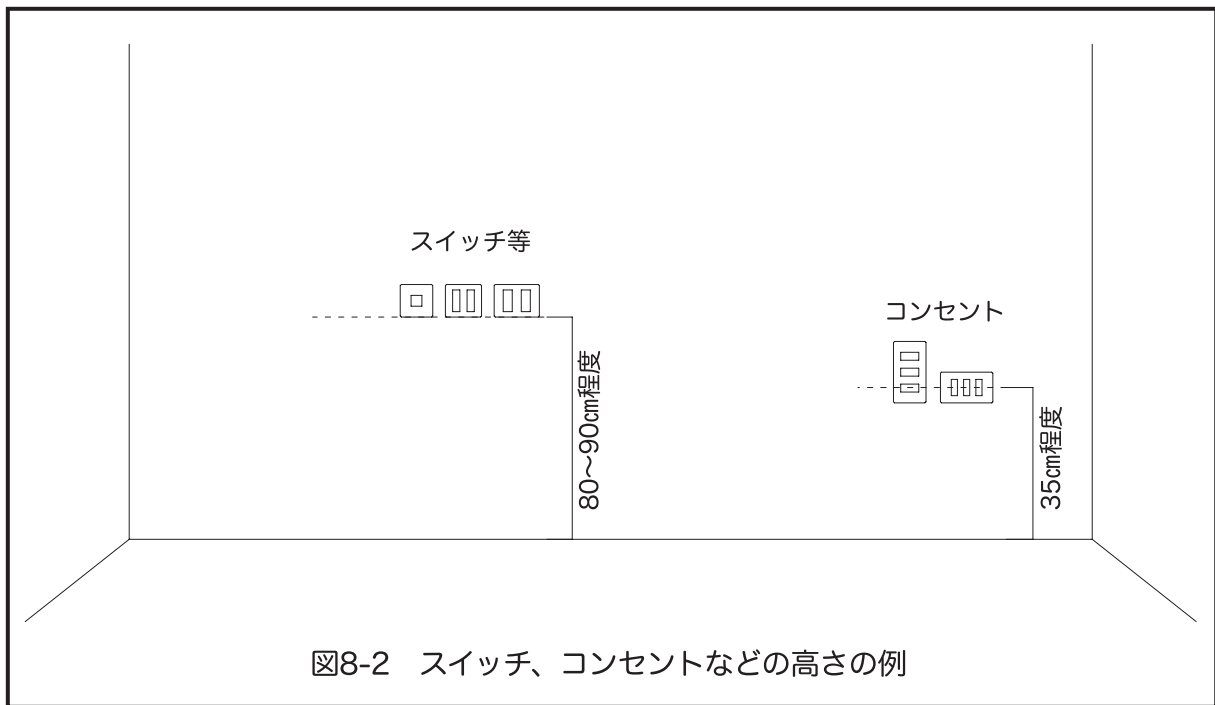


図8-2 スイッチ、コンセントなどの高さの例

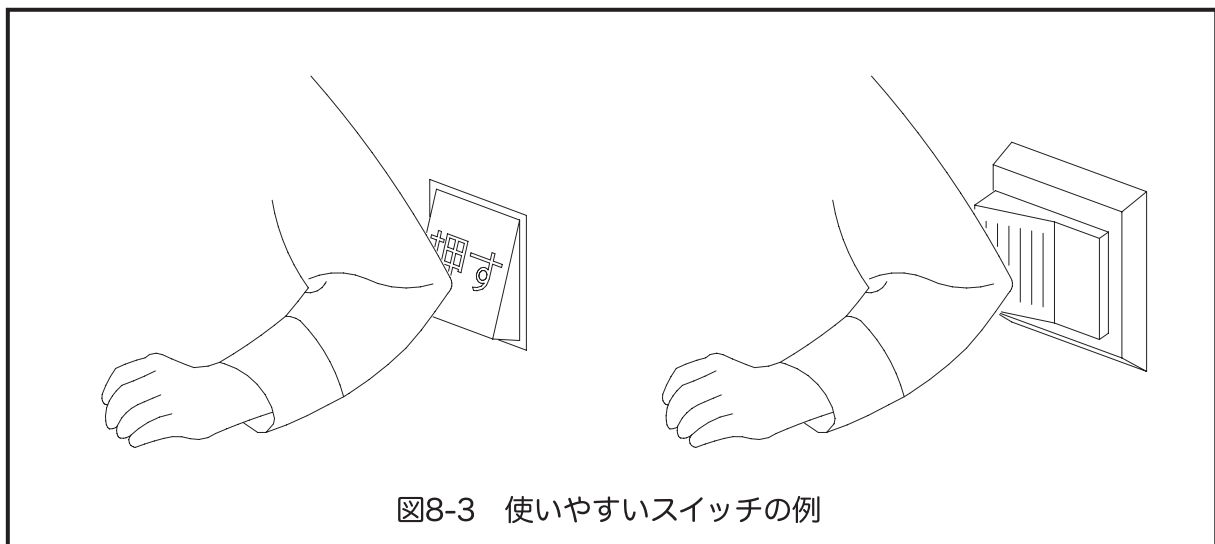
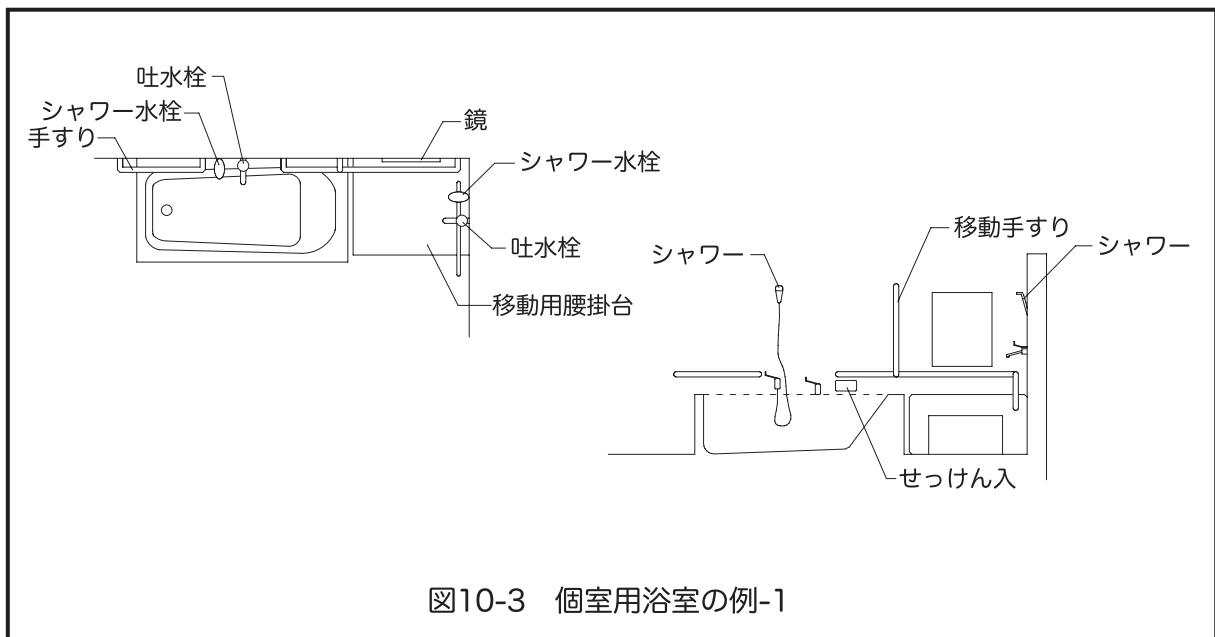
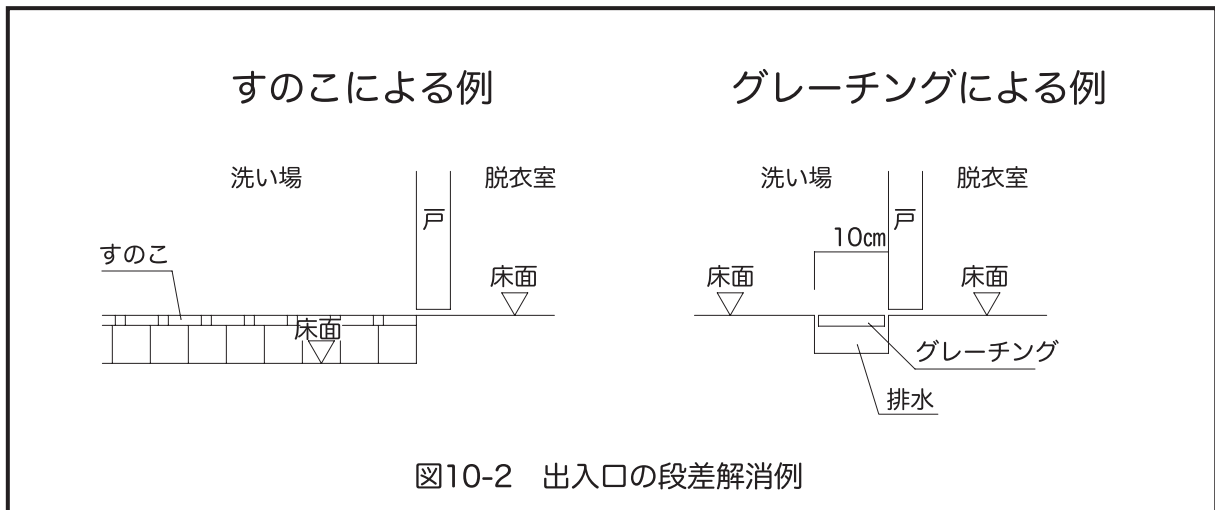
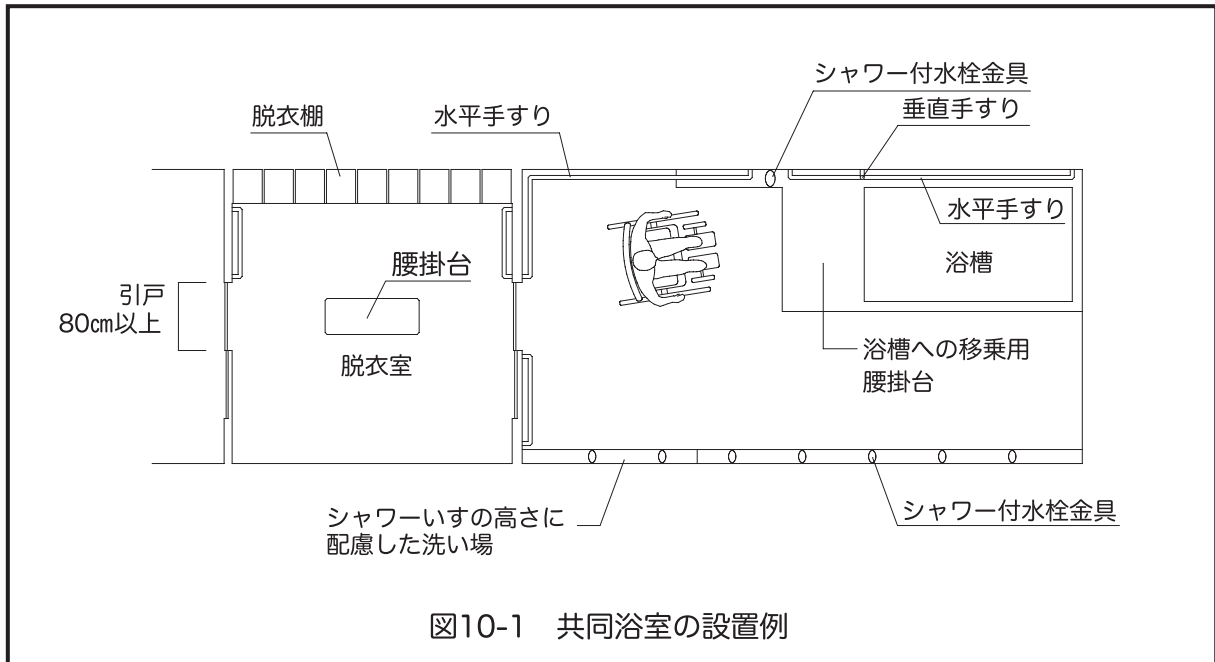
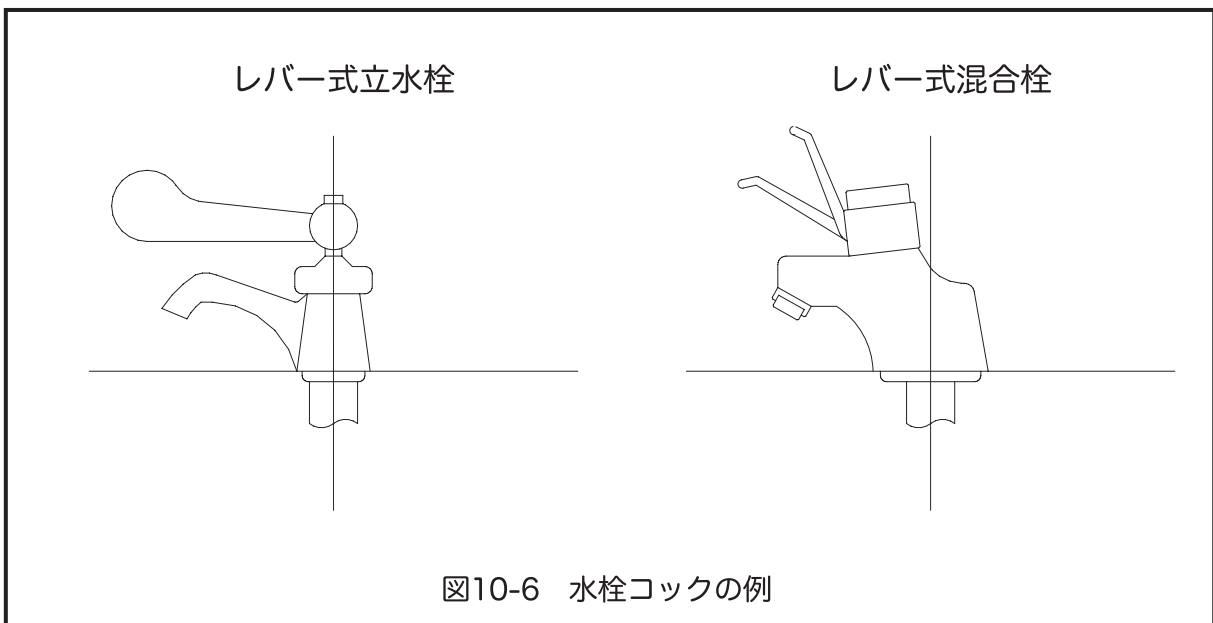
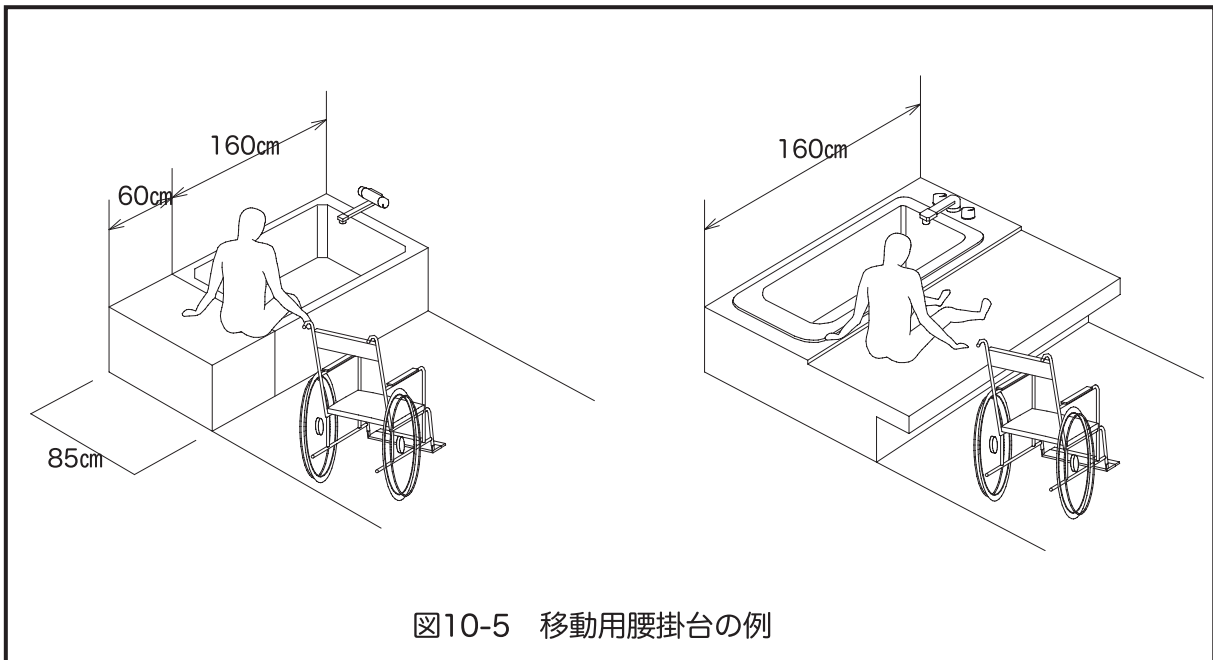
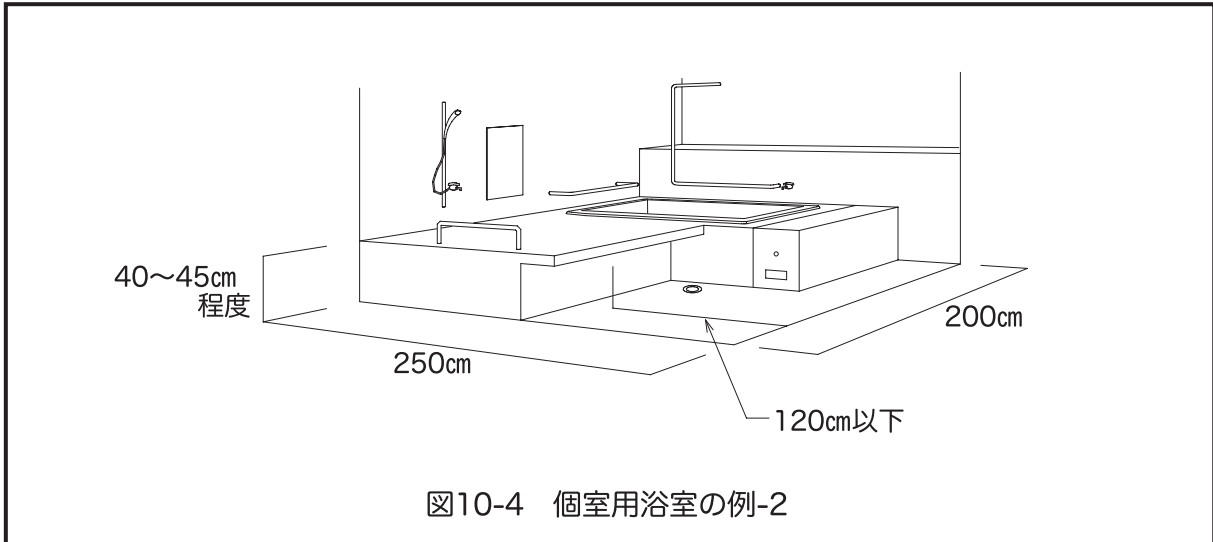


図8-3 使いやすいスイッチの例





11. 更衣室及びシャワー室

施行規則

建築物

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (11項 更衣室及びシャワー室)

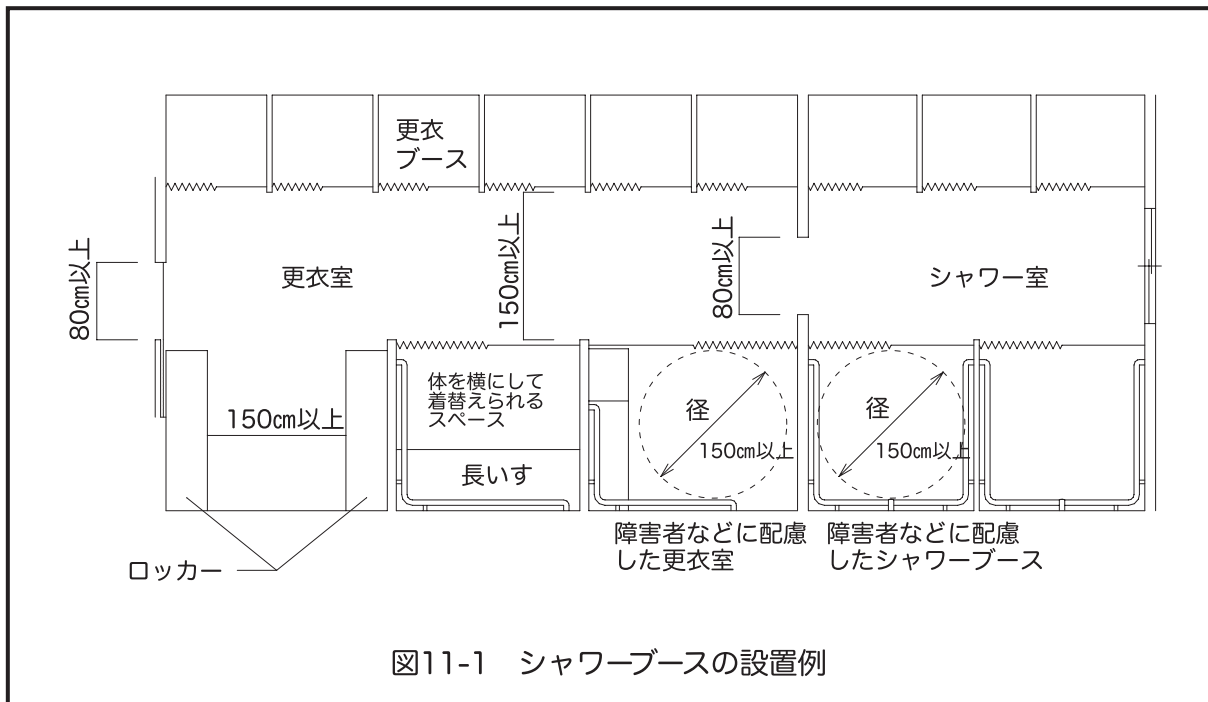


図11-1 シャワーブースの設置例

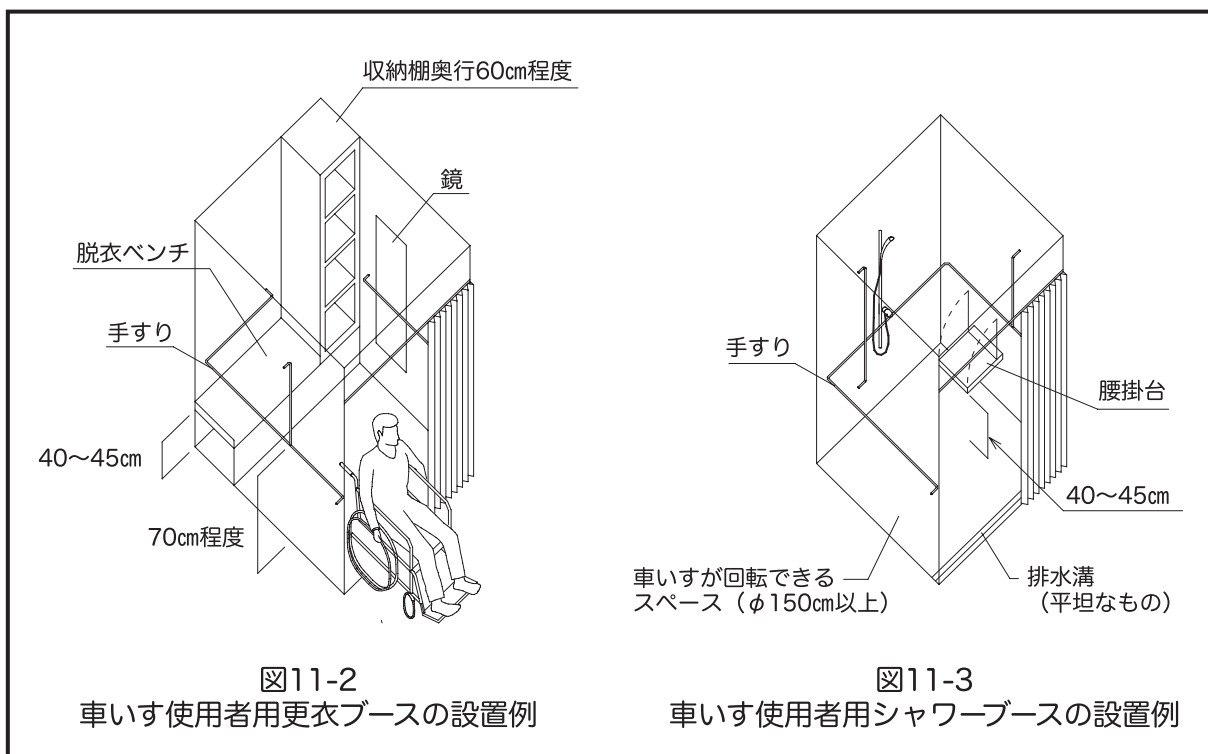


表15-1 案内板の整備ポイント

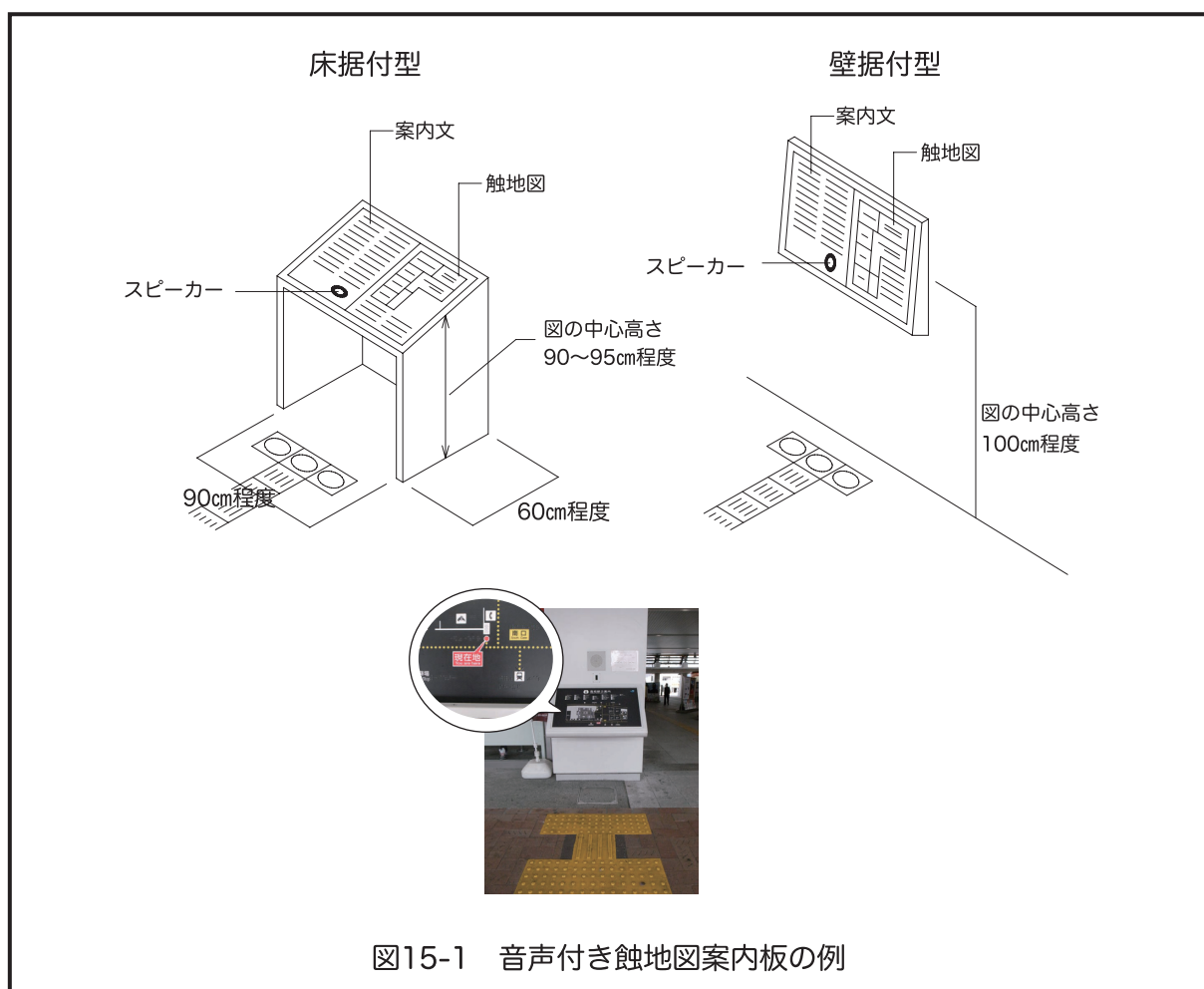
1. 案内板の整備概要
案内板や部屋名の表示など、施設利用のための情報案内設備は、誰もがわかりやすいよう、位置や大きさ、色彩、点字や絵による表示など、細やかな工夫が必要となる。 また、音声による情報認知が困難な聴覚障害者への配慮も必要である。
2. 仕様
<ul style="list-style-type: none"> ○案内板の高さ、文字の大きさ等は、障害者や高齢者、子供も見やすく、理解しやすいものとする。漢字にはふりがなを付ける等によりわかりやすくする。マークや絵、記号等で理解できる場合もあるので、それらを利用したわかりやすい表示を考慮する。 ○案内板を設ける場合は、点字表示を併用する。(P144 図15-1参照) ○案内板の表示は、弱視者や白内障の黄変化視界、色の識別をしにくい者等でも識別しやすく円滑に利用できるように、見分けやすい色の組み合わせを用いて表示要素ごとの明度、色相、及び彩度の差を確保するよう配慮すること。また、案内板による表示だけでなく、床面の色分け等も有効である。 ○必要に応じ、視覚障害者のために、音声または放送による案内装置を設ける。 ○記号表示等で、わかりにくいものには、可能な限り文字の併記をする。 ○逆光や反射グレアが生じないように、案内板の仕上げや設置位置、照明等に配慮する。
3. 設置場所等
<ul style="list-style-type: none"> ○案内表示は、遠くからでもその存在がわかりやすく、また近寄って確認できるように配慮する。 ○建物の案内板は、玄関付近に見やすくかつ、通行の支障にならないように、また導線面からも計画的に配置されることが必要である。なお、建物内の施設の配置が複雑な場合は、建物概要を表示した点字案内板、または触地図案内板を設ける。

表15-2 その他の情報案内設備の整備ポイント

1. 施設の部屋や便所等の表示
<ul style="list-style-type: none"> ○部屋名や番号の表示は、黒字のプレートに白抜きで表示するなど、大きく見やすいものとする。また、設置する高さは150～160cm程度とすること。 ○部屋名表示は、点字を併記する、浮き出し又は掘り込みなど、視覚障害者等が触って分かるものとする。 ○公共交通機関等の公共的施設の便所については、位置がわかるよう、音によるサインでの表示をすること。 ○便所の洗浄ボタンや非常ボタンなどを視覚障害者が、認識できるよう、点字で表示すること。
2. 磁気ループの設置等聴覚障害者への配慮
<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設においては、聴覚障害者に配慮し、磁気ループを設置する。 ○公共施設や銀行などでの受付における順番待ち表示等は、番号札と電光掲示板等文字との併用とする。 ○聴覚障害者向けの誘導装置として音声が変わって小型振動機を身につけておき振動で知らせる機器を併せて利用する。
磁気ループの一般的な設置型システムの例
<p>音声信号を、磁気誘導アンプを通し、床等に敷設したループアンテナ(多芯ケーブル)に電気信号として送る。</p> <p>ループアンテナ内で誘導磁界が発生し、音声磁場ができる。</p> <p>磁気コイル付補聴器(補聴器の“T”マーク)で音声信号として聞く。</p>
<p>※この他に、携帯型や小型のもの、カウンターに設置できるもの等がある。</p>

表15-3 緊急時の通報・誘導設備の整備ポイント

<p>1. 緊急時の通報・誘導設備の整備概要</p> <p>緊急の事態が発生した時に、情報が不足すると、集団でパニック状態になり不必要に混乱をまねき、弱者が犠牲になる可能性が大きくなる。こんな事態を予防するには、早期に正確に緊急時であることを知らせ、安全に避難できるよう誘導しなければならない。しかし、障害者や高齢者の中には情報の伝達や迅速な行動が困難な人も多いため、こうした人にも、正確な情報伝達と安全な誘導體制に十分配慮した施設づくりが必要である。</p>
<p>2. 警報装置(誘導灯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自動火災報知設備を設ける場合は、聴覚障害者に配慮した光等による非常警報装置を設ける。 ○警報装置は、光及び音によって非常事態の発生を告げる装置とし、自動火災報知機と連動させる。(P146 図15-7参照) ○緊急時に視覚障害者や聴覚障害者の避難誘導のために施設の状況に応じて、誘導音装置付誘導灯や点滅型誘導灯を設置する。(P146 図15-7参照)
<p>3. 緊急時の誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急時の誘導は、放送による誘導案内とともに電光文字表示装置を設置するなど聴覚障害者にも配慮する。
<p>4. 避難経路</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難経路は、誰もがスムーズに、かつ、できる限り自力で避難できるように配慮する。(わかりやすい動線や防火ドアの構造、安全区画に配慮する。)

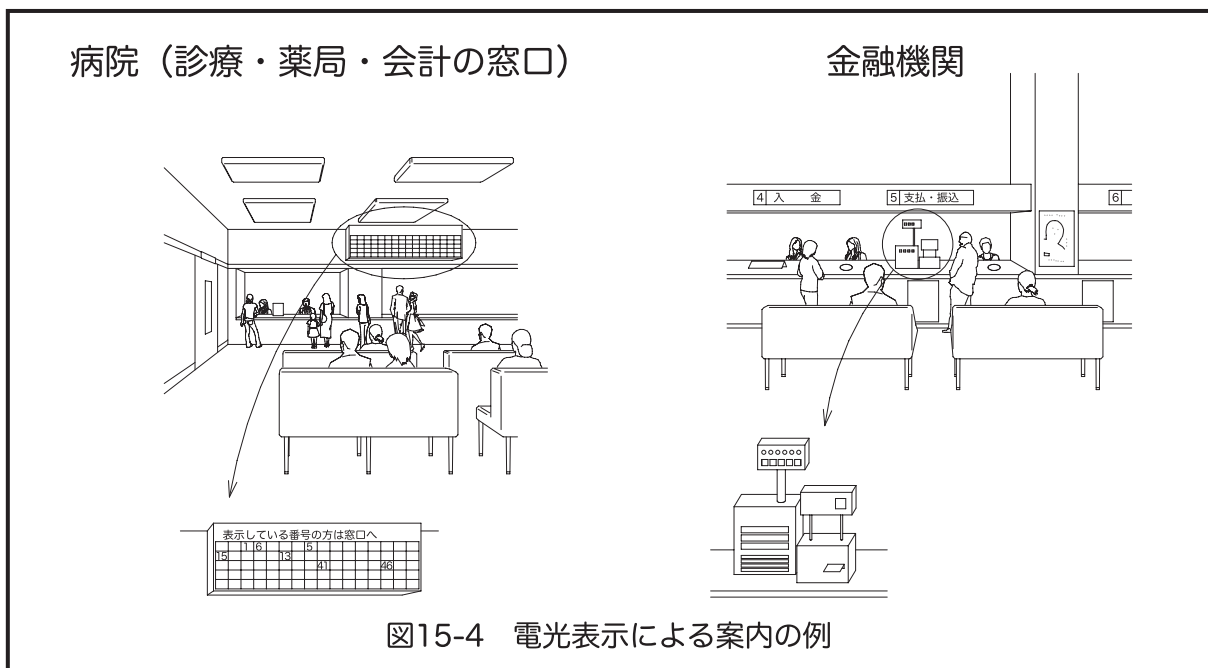
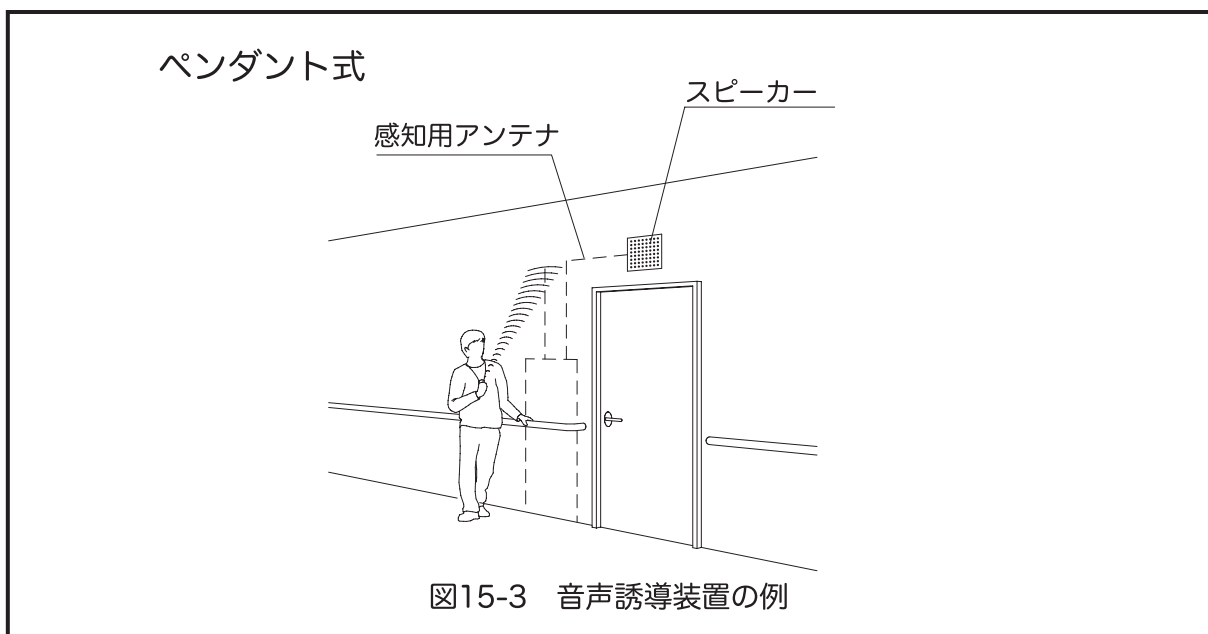
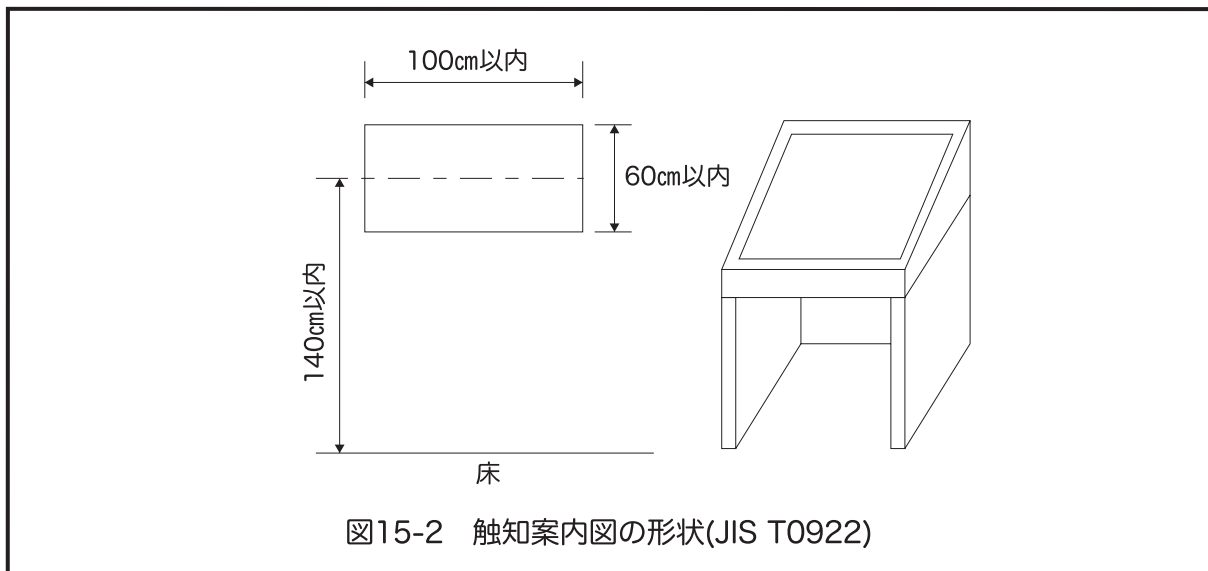


15. 案内板等

施行規則

別表第2 [1の表 建築物に関する整備基準] (15項 案内板等)

建築物

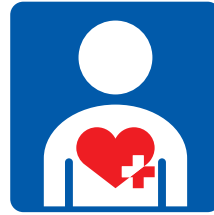


視覚障害者の国際マーク



世界盲人連合(WBU)が1984年に定めた世界共通の国際シンボルマーク
【世界盲人連合】

ハート・プラスマーク



心臓疾患などの内部障害があることを示すシンボルマーク
【特定非営利活動法人ハート・プラスの会】

ほじょ犬マーク



身体障害者補助犬同伴の啓発のためのマーク
【厚生労働省社会参加推進室】

耳マーク



聞こえが不自由なことを表す国内で使用されているマーク
【社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会】

【 】内は関係機関を示す

図15-5 案内板の例

誘導用標識



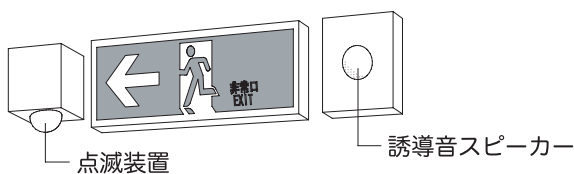
指示用標識



出典：
「交通エコロジー・モビリティ財団標準案内用図記号 公共・一般施設車椅子スロープ」

図15-6 誘導・指示用標識の例

誘導音装置付誘導灯
(既設蛍光灯に追加する場合)



点滅形誘導音装置付誘導灯 (一体型)
※床埋め込み式の誘導灯もある

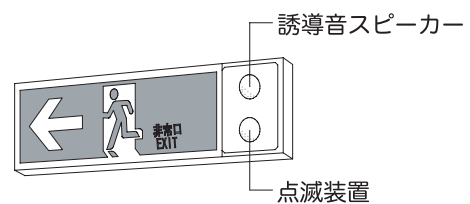











図15-7 非常警報装置の例

表15-4 標準案内用図記号

国際シンボルマーク	
	
青ネガ表現	青ポジ表現
	
黒ネガ表現	黒ポジ表現

国際シンボルマークを掲示するための最低基準	
○マークの基準	
寸法	10cm角以上、45cm角以下が望ましい。
色調	対比を明確にするために濃いブルー・白もしくは黒・白にして使用する。
○マークの掲示を行う場所の基準	
玄関	地面と同じ高さにするか、階段のかわりにまたは階段のほかに、傾斜路を設置する。
出入口	80cm以上開くものとする。回転ドアの場合は別の入口を併設する。
傾斜路	傾斜は1/12(こう配約4.7°)以下とする。室内外を問わず、階段のかわりにまたは階段のほかに、傾斜路を設置する。
通路	130cm以上の幅とする。
トイレ	利用しやすい場所にあり、外開きドアで仕切り内部が広く、手すりがついたものとする。
エレベーター	入口幅は80cm以上とする。

優先設備記号				
優先設備図記号(案)				
				
高齢者	障害者 (けが人)	妊産婦	乳幼児 連れ	内部 障害者

出典：「交通エコロジー・モビリティ財団 優先設備図記号 (高齢者、障害者(けが人)、妊産婦、乳幼児連れ、内部障害者用優先整備)の組み合わせ例」